

交通アクセス

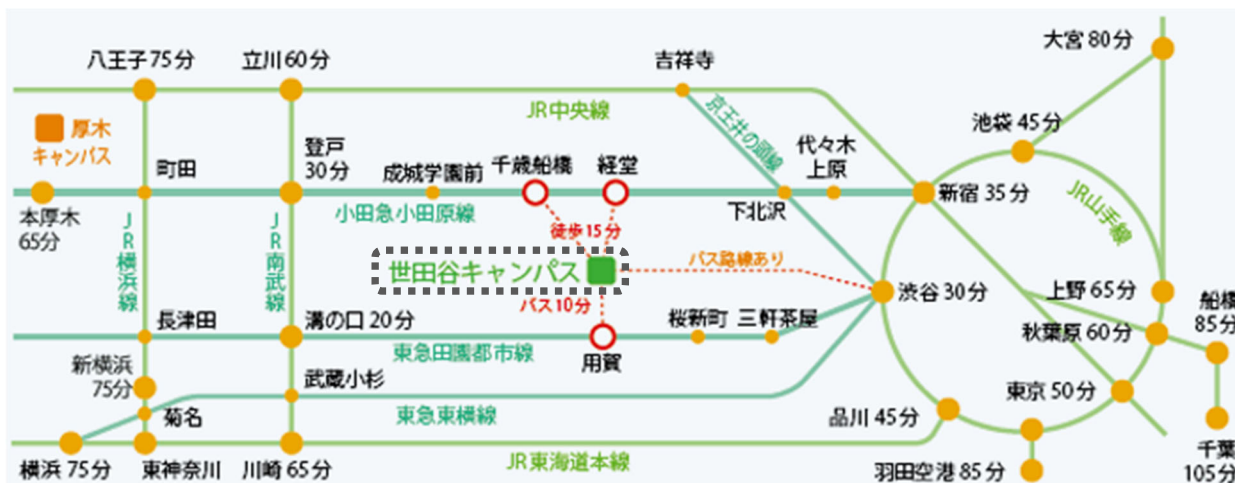
東京農業大学世田谷キャンパス（〒156-0054 東京都世田谷区桜丘1丁目1-1）

小田急線 経堂駅または千歳船橋駅から徒歩 15 分

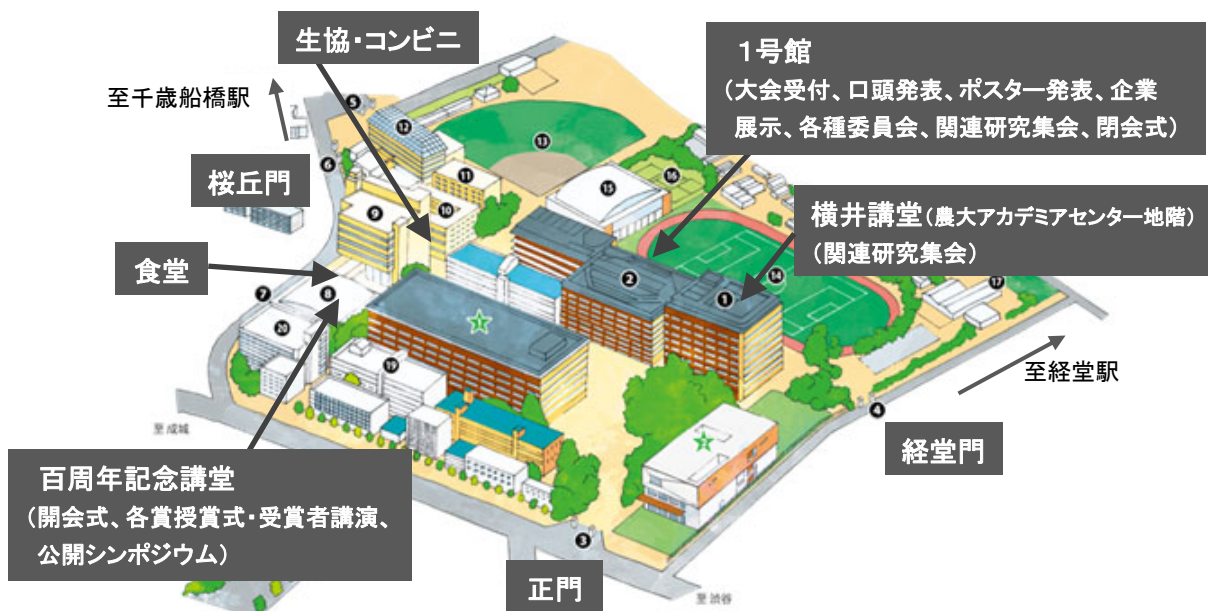
東急田園都市線 用賀駅からバス 10 分

JR 山手線他 渋谷駅からバス約 30 分

※詳しくは <https://www.nodai.ac.jp/campus/map/setagaya/> をご覧ください。



キャンパスマップ



タイムテーブル内の文字をクリックすると対応する講演リスト等に移動します

3月8日（金曜日）

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
331				学会企画1: 若手雇用問題			学会企画2: 自然再興	学会企画3: 森林科学卒業生		
332						S13: 変動環境				
341		S11: 生理部門シンポ				T5: 樹木根				
342		S12: 広葉樹林化				S1: 樹木の環境適応				
343		S5原発事故後の生物				T3: 森林放射能				
411			教育1			教育2				
412		林政1				林政2				
413		経営1				経営2				
431		S4: 農林業センサス			ポスター発表 コアタイム	S6: 林業経済学		T4: デジタルツイン		
432		S3: 生物多様性枠組				T1: 多様性保全				
441		S2: 都市住民と森林				T2: 保健休養機能		風致・観光 1		
442		S10: 木質バイオマス				S9: スマート林業				
443		S8: 山林の変化と災害				防災・水文1				
531	ポスター発表: 経営、造林、遺伝・育種、生理									
532	ポスター発表: 生理（531会場からの続き）、植物生態、立地、防災・水文									
541	ポスター発表: 林政、風致・観光、教育									
542	ポスター発表: T5、論文賞、学会企画4、高校生ポスター									
543	ポスター発表: 防災・水文（532会場からの続き）、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産、T1、T2、T3									

3月9日（土曜日）

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
百周年 記念講堂 341		開会式、森林学会各賞授賞式、受賞者講演				公開シンポジウム「楽しい林業、元気のでる林業」				
									学会企画4: 国際	

3月10日（日曜日）

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
331		微生物					特用林産			
332		動物・昆虫1					動物・昆虫2			
341		立地					遺伝・育種			
342		造林1					造林2			
343		防災・水文2					防災・水文3			
411		S7: 森林教育の発展					教育3			
413		風致・観光2					風致・観光3			
431		林政3					林政4			
432		利用1					利用2	閉会式		
441		経営3					経営4			
442		植物生態1					植物生態2			
443		生理						学会企画6: 日林誌		
531	ポスター発表: 経営（541会場からの続き）、造林、遺伝・育種									
532	ポスター発表: 遺伝・育種（531会場からの続き）、生理、植物生態、立地、防災・水文									
533	学会企画5: 高校生表彰式、ツアー									
541	ポスター発表: 林政、風致・観光、経営									
542	ポスター発表: 論文賞、学会企画4、高校生ポスター									
543	ポスター発表: 防災・水文（532会場からの続き）、利用、動物・昆虫、微生物									

3月11日（月曜日）

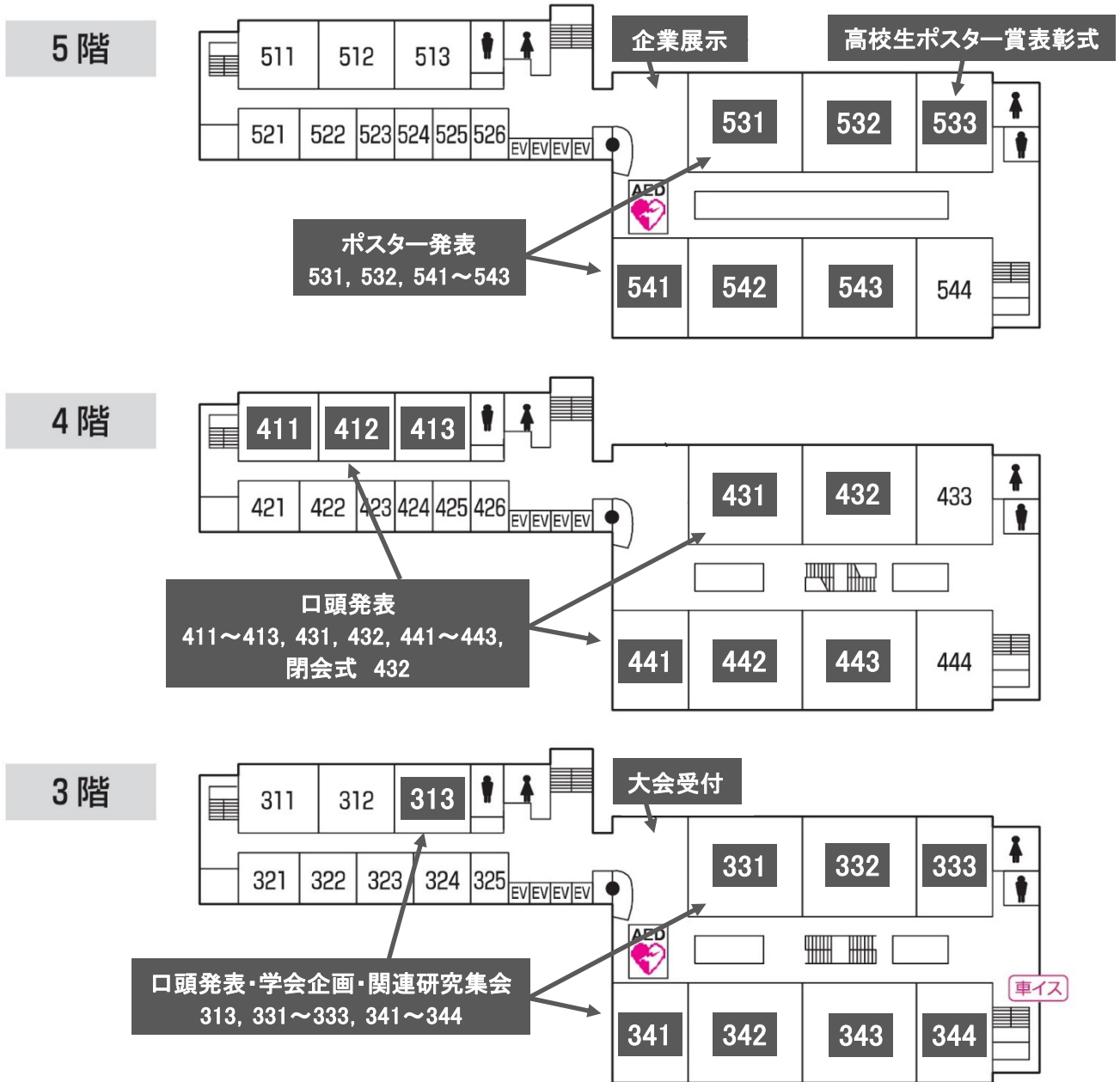
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
313				学会企画7:	←森林科学を学んだらどんな仕事があるのか					
331					学会企画8: 森林・林業分野職業研究会					
332	第24回森林施業研究会 シンポジウム									
333	森林遺伝育種学会 シンポジウム									
341	第30回森林昆虫談話会									
342	森林計画学会 総会・シンポジウム									
343	森林利用学会 総会・シンポジウム									
344	樹木病害研究会									
	林業経済学会 2024年春季大会シンポジウム（横井講堂）									
	第6回森林水文・地球科学研究会（東京大学農学部1号館）									
	森林立地学会（現地研究会） 集合・解散：国際展示場駅・天王洲アイル駅（予定）									

■世田谷キャンパス 1号館(会場は3階～5階のみ)

3階 大会受付、口頭発表、学会企画、関連研究集会

4階 口頭発表、閉会式

5階 ポスター発表・企業展示



研究発表題目（企画シンポジウム・部門別口頭発表） 3月8日 午前 1/2

会場	331	332	341	342	343	411	412
開始時刻			S11 生理部門シンポ	S12 広葉樹林化	S5 原発事故後の生物		
9:00			S11-1 スギの成長特性：丹下健（東京大学）	S12-1 広葉樹林化の困難性と可能性：酒井武（森林総合研究所）	S5-1 森林に降った放射性セシウムの動態：小松雅史（森林総合研究所）ら		
9:15			S11-2 モデル植物としてスギを使う～針葉樹における新奇の光合成代謝の解明を例に：宮澤真一（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	S12-2 静岡県における針広混交林化に関する取組と現状について：高田航（静岡県）ら	S5-2 福島第一原発事故後に観察されたモミの形態変化の検証：渡辺嘉人（量子科学技術研究開発機構）		
9:30			S11-3 遺伝子発現から探るスギの高温順化メカニズム：伊原徳子（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）	S12-3 下層植生の回復と表土流出の抑止に及ぼすヒノキ人工林の間伐方法の影響：渡邊仁志（岐阜県森林研究所）	S5-3 帰還困難区域内外に自生するアカマツのDNA融化解損レベルの比較：水澤玲子（福島大学）ら		
9:45				S12-4 日照条件からみたスギ・カラマツ人工林の伐採幅の検討：宋宮文晴（公益財団法人日本自然保護協会）	S5-4 低線量率放射線による突然変異リスクの迅速評価法の開発：上野真義（森林総合研究所）ら		林政 1
10:00				S12-5 関東森林管理局における広葉樹林化の取組：諏訪実（関東森林管理局）	S5-5 福島に住むことになった研究者が見たこと、考えたこと、取り組んだこと：兼子伸吾（福島大学）		A1 地方自治体の森林行政担当者の知識と情報源：石崎涼子（森林研究・整備機構 森林総合研究所）
10:15				S12-6 広葉樹林化を加速させる播種方法：星野大介（森林研究・整備機構）			A2 森林環境譲与税の用途に対する嗜好評価：秩父市を事例とする選択型実験：片田陽菜（筑波大学大学院）ら
10:30							A3 都道府県による小規模林業者への機械導入支援の実態：尾分運也（兵庫県立大学）ら
10:45						教育 1	討論・調整
11:00						C1 19世紀ドイツの林業作業 - 1833年のバーデン森林法 その2: 寺下太郎（愛媛大学大学院農学研究科）	A4 The role of the FCS under state-owned forest farm reform -case study in Huanglong Mountain Forestry Bureau: 王一聰（九州大学）ら
11:15						C2 地域の固有種にみる森林環境教育の可能性 - 対馬市と日南町の政策から -：杉浦克明（日本大学）ら	A5 タンザニアのPFM政策における住民参加の実態（仮）：福岡崇（亜細亜大学）
11:30						C3 世界自然遺産登録を契機に地域を学び直す地方自治体職員の実容：大島順子（国立大学法人 琉球大学）ら	A6 発表取消
11:45						討論・調整	討論・調整
12:00							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月8日 午前 2/2

会場	413	431	432	441	442	443
開始時刻		S4 農林業センサス	S3 生物多様性枠組	S2 都市住民と森林	S10 木質バイオマス	S8 山林の変化と災害
9:00		S4-1 2010年から2020年までの農林業センサスデータの接続とその分析意義：多田忠義（株式会社森林中金総合研究所）ら	S3-1 昆明・モントリオール生物多様性枠組実現に向けた産学官の役割：香坂玲（東京大学大学院）	S2-1 森林への関心と訪問をめぐる調査・研究の動向：高山範理（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	S10-1 木質バイオマス燃料供給の現状とこれからの木質バイオマスの可能性：有賀一広（宇都宮大学）ら	S8-1 森林の水資源養機能の概念が生み出された背景を探る：谷誠（元京都大学）
9:15	経営 I	S4-2 個票データに基づく林業経営体の参入・退出の地域差に関する分析：多田忠義（株式会社森林中金総合研究所）ら	S3-2 生物多様性の価値評価とWeb調査分析：栗山浩一（京都大学）	S2-2 都市住民における森林無関心層・無訪問層の実態把握：小田龍聖（森林総合研究所）ら	S10-2 東北における木質バイオマスを含めた木材流通の実態：鈴木信哉（ノースジャパン素材流通協同組合）	S8-2 森林の成立に伴う物質循環機構の変化：徳地直子（京都大学）
9:30		S4-3 2010～20年センサスにおける林業経営体数と素材生産量の全般的な動向：藤掛一郎（宮崎大学）ら	S3-3 自然共生サイトの概要と傾向：蒲地紀幸（環境省）	S2-3 都市および地方居住者の自然・森林に抱く愛着：大塚啓太（森林総合研究所）	S10-3 九州における木質バイオマス発電・燃料供給の実態：森山和浩（日本フォレスト株式会社）	S8-3 神奈川県における太平洋戦争末期の松根油緊急増産：齋藤敏生（東京大学）ら
9:45		S4-4 農林業センサスにおける極小規模所有者を含む林家の動向：芳賀大地（鳥取大学）ら	S3-4 炭素貯留・生産林の効率的な管理に向けたドローン3次元計測の試行：山口毅志（鹿島建設株式会社）ら	S2-4 ソーシャルメディアへの投稿に見る来訪者の森林空間利用と自然体験への関心：神宮翔真（森林総合研究所）	S10-4 定期アンケートに基づく国内の木質燃料の需給動向と安定供給に向けた一考察：大久保敬宏（一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会）	S8-4 気候変動と土砂災害の発生状況、社会的認識の変化：内田太郎（筑波大学）ら
10:00		S4-5 積極的な経営を行う大規模保有林業経営体の特徴：林雅秀（山形大学）	S3-5 ビッグデータを用いた国立公園利用の経済分析：柘植隆宏（上智大学）ら		S10-5 木質バイオマス燃料を目的とした早生樹導入の可能性と課題：富山啓介（岩手大学）ら	
10:15		S4-6 農林業センサスにおける立木買い・受託素材生産経営体の動向：藤野正也（福島大学）	S3-6 スマートフォンによる市民参加型生物多様性モニタリング：藤木庄五郎（株式会社バイオーム）		S10-6 木質バイオマスガス化発電に適した燃料供給の現状と課題：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）	
10:30	討論・調整	S4-7 農林業センサスにおける地域性と森林組合のシェア：笹田敬太郎（国研森林総合研究所）	S3-7 風力発電施設の視覚的影響評価に関する国内外の研究動向：OECMへの示唆：内田正紀（東京大学）		S10-7 転換点における木質バイオマス産業用熱利用の導入形態に関する考察：澤田直美（一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会）	
10:45			S3-8 人口縮退期における農村集落の将来シナリオと環境影響評価に関する研究：謝知秋（九州大学）			
11:00			S3-9 松阪市における土地利用変化：農地転用の傾向と要因の考察：祖父江侑紀（東京大学）			
11:15						
11:30						
11:45	討論・調整					
12:00						

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月8日 午後 1/2

会場	331	332	341	342	343	411	412
開始時刻	学会企画 1						
12:00							
12:15	ダイバーシティ 若手雇用問題についての 情報交換						
12:30							
12:45							
13:00							
13:15		ポスター発表コアタイム					
13:30							
13:45							
14:00		S13 変動環境	T5 樹木根	S1 樹木の環境適応	T3 森林放射能	教育 2	林政 2
14:15		S13-1 ケヤキの成木と苗木の葉におけるオゾン吸収速度の比較とその違いの解析：渡辺誠（東京農工大学）	趣旨説明	S1-1 ダケカンパ産地試験林の設立経緯と現代的意義：後藤晋（東京大学大学院農学生命科学研究科）	趣旨説明	C4 博物館の展示にみる新たな森林環境教育の可能性：三浦万由子（日本大学大学院）	A7 農山村の内発的発展にむけた移住促進政策の役割：北海道下川町を事例として：黒田峻平（北海道大学）
14:30	学会企画 2	S13-2 多層ガス交換モデルに基づくスギ針葉のオゾン吸収量の樹冠内鉛直分布の推定：田中亮志（東京農工大学）	T5-1 二次林の異なる樹種がもたらす斜面崩壊防止力の比較：今若舞（兵庫県立大学大学院）	S1-2 5つの産地試験林を用いたダケカンパの光合成特性の種内変異の評価：飯尾淳弘（静岡大学）	T3-1 森林斜面からの浅層地下水流出によるCs-137移行フラックスの推定：庭野佑真（筑波大学）	C5 森林体験と探究的学習を定点カメラ映像で繋ぐプログラムのプロトタイプ開発：中村和彦（東京大学）	A8 道の駅における林産物出荷者の特徴：志賀薫（森林総合研究所）
14:45		S13-3 異なる土壌に生育したヤマナシ風2種の虫害発生とオゾンの影響：小池孝良（北海道大学）	T5-2 大雨を伴う台風で引き起こされる風倒と崩壊のリスク要因の比較：森本洋子（北海道大学大学院）	S1-3 ダケカンパ実生の個体および個体スケールの光合成特性とその種内変異：廣田充（筑波大学）	T3-2 安定同位体 Cs を用いたコナラとスギの土壌からの放射性 Cs 吸収深度の推定：今村直広（森林総合研究所）	C6 地域活性化を目指した木育ものづくり活動の実践：大園慶（上越教育大学）	A9 旧尾鷲町の山道における利用の変遷と整備・管理の実態：平山和虎（東京大学）
15:00		S13-4 常緑広葉樹葉が展葉期に示す分光特性変化の適応的な解釈：久米篤（九州大学）	T5-3 アラスカ永久凍土上に生育する3樹種の樹根発生位置と肥大成長量の経時変化：菊川拓聖（信州大学）	S1-4 南北にわたるダケカンパの表現型変異と自然選択：小集団化との関連：相原隆貴（筑波大学）	T3-3 野生山菜コシアブラに ¹³⁷ Cs を供給する土壌深度の推定：渡邊未来（国立環境研究所）	討論・調整	討論・調整
15:15		S13-5 変動する大気環境に対する日本海側の森林葉水圏の応答：佐瀬裕之（アジア大気汚染研究センター）	T5-4 ¹³ C ラベリングによるカラマツ根根の年輪への光合成産物配分の季節変動：木元栄子（信州大学）	S1-5 ダケカンパの補栽環境と産地の違いによる遺伝子発現：津村義彦（筑波大学）	T3-4 2014～23年の川俣町山木屋地区広葉樹林のリターと幹材の ¹³⁷ Cs動態：小林達明（千葉大学大学院）	討論・調整	空 （ここで予定されていた講演は3月10日に移動）
15:30	副会長 造林学・森林生態学と自然再興	S13-6 ガスおよびエアロゾルの大気-森林間交換：松田和秀（東京農工大学）	T5-5 冷温帯9樹種における細根・葉・土壌に含まれる一次代謝産物の樹種間差：勝間帆波（信州大学大学院）	S1-6 Effects of elevated temperature on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> revealed by range-wide provenance trial: Aye Myat MyatPaing（東京大学）	T3-5 シュートの二次成長が休眠期のコナラ当年枝の ¹³⁷ Cs 放射能濃度に与える影響：三浦寛（森林総合研究所）	C11 森林とふれあいの場“環境教育林”運営の現状と課題—多摩森林科学園の事例：井上真理子（森林総合研究所）	A10 明治期の秩父地域におけるニホンオオカミの駆除：植松朔子（東京農業大学）
15:45			討論・調整			C9 学校教育における森林の土砂流出防止機能に関するモデル実験の提案：東原貴志（上越教育大学）	A11 ふもとばらキャンプ場における捕獲されたシカの多用途利用について：稲富拓人（筑波大学）
16:00			T5-6 丹沢スギ林の地上部・地下部生産フェノロジー：仲畑了（東京大学）		討論・調整	討論・調整	A12 山形県西置賜郡のブナ林の地球観測衛星画像をマタギと一緒に見る：林剛平（東京外国語大学）
16:15	学会企画 3		T5-7 深層学習を用いた細根自動抽出ソフトウェアによる成長・枯死根の抽出：山形拓人（兵庫県立大学）				A13 屋久島における宿泊業の盛衰過程：ロングステイの可能性を探る：西宮琉之助（東京大学大学院）
16:30			T5-8 森林生態系における樹木根の発達と機能の最近の理解の進展：牧田直樹（信州大学）				A14 都道府県、市町村における自伐林業及び自伐型林業推進方針・施策の類型化：土居拓務（農林水産政策研究所）
16:45			討論・調整				A15 林業労働における現代的低賃金構造の予備的考察：伊藤幸男（岩手大学）
17:00			ポスター紹介				討論・調整
17:15	合同 求む！森林科学の卒業生		討論・調整（総合討論）				A16 2020年代における自伐型林業研修受講者の特性と就労意向：佐藤直子（九州大学）
17:30							A17 事例にみる森林組合経営の課題：松本美香（高知大学）
17:45							A18 国有林施業と受注事業体の傾向～九州森林管理局データ5年間の分析～：富野岳明（九州大学大学院）
18:00							討論・調整
18:15							
18:30							
18:45							
19:00							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月8日 午後 2/2

会場	413	431	432	441	442	443
開始時刻						
12:00						
12:15						
12:30						
12:45						
13:00	ポスター発表コアタイム					
13:15						
13:30						
13:45						
14:00						
	経営 2	S6 林業経済学	T1 多様性保全	T2 保健休養機能	S9 スマート林業	防災・水文 1
14:15	D9 スギ高齢林の樹冠形状と樹高成長の関係について：福井翔宇（株式会社パスコ）	S6-1 林業経済学の歩みをふりかえり、これからを考える：柴崎茂光（東京大学） S6-2 2000年代以降の研究史を概観する：三木敬朗（信州大学） S6-3 林業経済学に求められているリサーチクエスト：ワークショップを経て：岩永青史（名古屋大学）	T1-1 南三陸地域イヌワシ生態環境再生に向けた森林管理の特徴：工間（京都大学）ら T1-2 人工林の管理は様々な気候・季節で遷移初期性・森林性鳥類の回復に役立つ：河村和洋（森林総合研究所）ら T1-3 温帯二次林における甲虫群集の垂直・水平分布：石塚達也（東京農工大学大学院）ら	T2-1 事例検討：内的作業モデルの対象としての風景：尾崎勝彦（びわこリハビリテーション専門職大学）ら T2-2 Understanding the Diversity and Status of Urban Trees and Herbaceous Plants of Setagaya Ward: キハラママーヴン（Tokyo University of Agriculture (NODAI)）ら T2-3 都市近郊の里山を活用した森林散策カウンセリング - 若手女性職員の事例 -：竹内啓恵（樹つ木合同会社 / 東京農業大学）ら T2-4 九州の病院における森林療法の導入：上原巖（東京農業大学）	S9-1 スマート林業は何を指しているのか？：鹿又秀聡（森林総合研究所） S9-2 スマート林業の現場実装に向けた林野庁の取組：本山淳一（林野庁） S9-3 長野県におけるGNSS測量技術の普及とRTK基準局設置の取組み：松永宙樹（長野県森林組合連合会） S9-4 レーザ機器等を活用した林業事業体による立木評価の現場実装への取組み：山田隆信（山口県森林総合技術センター） S9-5 オルソ画像認識 AI エンジン開発における学習データセット整備の効率的な手法：木村一也（石川県森林組合連合会）ら S9-6 林業アプリ WoodRepo ユーザの利便性向上と効率的運用への取組み：上野直人（株式会社エイブルコンピュータ）ら S9-7 深層学習 Web アプリにて活用するための UAV 林内全天球画像の選別：矢田豊（石川県森林総合研究センター）ら S9-8 森林の管理優先度を広域評価する技術の提案と実装に向けて：鷹尾元（森林総合研究所）ら	J1 地下水モデルへの接続を目的とした広域森林情報の活用と森林水循環評価：五味高志（名古屋大学）ら J2 森林の成熟が土砂災害発生に与える影響の全国的評価：篠原慶規（宮崎大学）ら J3 未経験降雨指数による近年の土砂災害を引き起こした降雨の解析：小杉賢一朗（京都大学）ら J4 斜面崩壊の引き金となる降雨評価法について：執印康裕（九州大学）
14:30	D10 トドマツ人工林の連年成長量に対する環境要因の効果：滝谷美香（道総研林業試験場）ら	S6-4 林業経済学の未来に向けて：リサーチクエスト：探索の経緯と議論：田村典江（事業構想大学院大学）	討論・調整	討論・調整		討論・調整
14:45	D11 深層学習を用いた林内画像による林分情報の解析：浅井天哉（京都府立大学大学院）ら					
15:00	D12 異なる環境条件下の打撃音に基づく樹高・材積推定深層学習モデルの精度検証：藤橋浩一（京都府立大学大学院）ら					
15:15	討論・調整		T1-4 多樹種が共存する亜熱帯広葉樹林の更新ニッチに影響する iPPFD の差：谷口真吾（琉球大学）ら	討論・調整		
15:30	D13 地上レーザーによる森林内下層植生状況の把握：岩崎有莉沙（千葉大学）ら		T1-5 樹種混植と施肥が個体成長に及ぼす影響 - 幼齢樹木多様性実験の結果から -：齋藤大（フラインク大学）ら			
15:45	D14 森林内空隙構造による微気象への影響評価：青柳寛太郎（千葉大学）ら		T1-6 保持林業の四国での適用：水源林のスギ・ヒノキ人工林での取り組み：山浦悠一（森林総合研究所）ら			
16:00	D15 地上レーザーを用いたクロマツ海岸林の曲がり樹形解析：山田誠太郎（千葉大学）ら		討論・調整			
16:15	D16 超小型バックパックレーザースキャナを用いた立木幹直径と矢高の計測精度検証：米康充（島根大学）ら		T1-7 気候変動下で持続的な生態系サービス供給を実現する森林管理のシナリオ分析：堀田亘（北海道大学）ら			
16:30	討論・調整		T1-8 王子グループの生物多様性保全の取り組み：ネイチャーポジティブの実現へ：豊島悠哉（王子マネジメントオフィス株式会社）			
16:45	D17 里山林内に生育するスギ・ヒノキの生態系サービスの貨幣価値評価：江口則和（人間環境大学）ら	T4 デジタルツイン	T1-9 生物多様性保全と森林管理のための制度的取り組み：堀靖人（森林総合研究所）ら			
17:00	D18 森林調査におけるドローンレーザー計測手法と計測精度の検討：市菜華弘（日本森林林業振興会）	趣旨説明	討論・調整			
17:15	D19 UAV-LiDAR データからの樹幹形質推定精度の検証：平岡裕一郎（静岡県立農林環境専門職大学）ら	T4-1 森林を含む全国規模のデジタルツインの構築を目指して：中村良介（産業技術総合研究所）ら		風致・観光 1		
17:30	D20 複数サイトを対象とした森林計測と検証 ②機械学習モデルの構築：緒方誠二郎（鹿島建設株式会社）ら	T4-2 森林デジタルツインの構築に向けた現状と課題：瀧誠志郎（(国研) 森林総合研究所）ら		B1 牧野道を活用した草原ライド参加者の草原保全の意識に関する研究：蓮池辰哉（東京農業大学）ら		
17:45	討論・調整	T4-3 デジタルデータを活用した自動走行フォワードの開発：中澤昌彦（森林総合研究所）ら		B2 阿蘇くじゅう国立公園における牧野組合の野焼き支援ボランティアの導入要因：奥山雄斗（東京農業大学）ら		
18:00		T4-4 森林デジタルツイン構築に資する環境データの IoT モニタリングシステム：南光一樹（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら		B3 茨城県阿見町における竹林の現状と竹林を活かした地域づくりの可能性：入江彰昭（東京農業大学）ら		
18:15		討論・調整		討論・調整		
18:30						
18:45						
19:00						

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月9日 午前

会場 (収容人数)	百周年記念講堂	341 (160)
開始時刻		
9:00		
9:15	開会式・授賞式・受賞者講演	
9:30	開会式 授賞式 受賞者講演	
9:45		
10:00		
10:15		
10:30		
10:45		
11:00		
11:15		
11:30		
11:45		
12:00		

研究発表題目（企画シンポジウム・公開シンポジウム）3月9日 午後

会場 (収容人数)	百周年記念講堂	341 (160)
開始時刻		
12:00		
12:15		
12:30		
12:45	公開シンポジウム	
13:00	「楽しい林業、元気のでのる 林業」	
13:15		
13:30		
13:45		
14:00		
14:15		
14:30		
14:45		
15:00		
15:15		
15:30		
15:45		
16:00		
16:15		
16:30		
16:45		学会企画 4
17:00		国際交流 帰国留学生会員、アジア 林学会と交流会
17:15		
17:30		
17:45		
18:00		
18:15		
18:30		
18:45		
19:00		

研究発表題目（企画シンポジウム・部門別口頭発表）3月10日 午前 1/2

会場	331	332	341	342	343	411	412
開始時刻				造林 1	防災・水文 2	S7 森林教育の発展	
9:00				E1 機械地捨て地で下刈り1回のみ行ったトドマツ夏植栽苗の8年間の生存と成長：原山尚徳（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	J5 エルニーニョ南方振動が突き動かすポルネオ熱帯雨林の炭素・水循環：熊谷朝田（東京大学）	S7-1 ボーイスカウトで実施している森林環境を活用した教育活動：香山雅純（森林総合研究所） S7-2 中学校における森林環境教育の取り組みについて：玉置理那（鹿児島市立谷山中学校）	
9:15	微生物	動物・昆虫 1	立地	E2 植栽地の斜面方位によって必要な下刈り回数が変わるか？：陶山大志（島根県中山間地域研究センター）	J6 ワサビ田の微気象構造とその上位部に生育するヒノキの樹液流動測定：竹内真一（東海大学）ら	S7-3 通信制高校における自然体験を中心としたカリキュラムに関する実践報告：中嶋優友（広島工業大学高等学校） S7-4 大学構内の森林における体験活動の可能性：子ども・学生の育ちからの考察：佐藤冬果（東京家政学院大学）	
9:30	M1 <i>Phyllosticta sphaeropsoides</i> によるトチノキ斑葉病（新株）：富澤千晶（東京農業大学）ら	L1 シカによって剥皮害を受けた直後のサラサドウダン幹表面の細胞形成：阪上宏樹（九州大学）ら	I1 10年間の森林下層植生除去が土壌生物群集機能に与える影響：菱拓雄（九州大学）ら	E3 低コスト再造林プロジェクト紹介：田中賢治（国土防災技術株式会社）	J7 Impact of conversion from forest to photovoltaic power farm on river water quality: フアラナクモイン（東京大学）ら	S7-5 大学構内の森林における体験活動の可能性：子ども・学生の育ちからの考察：佐藤冬果（東京家政学院大学） S7-6 森林環境における野外運動授業が大学生の創造性に及ぼす影響：渡邊仁（筑波大学）	
9:45	M2 ナナミノキの枝葉に発生した細菌病について：石原誠（森林総合研究所）ら	L2 北八ヶ岳亜高山針葉樹林におけるニホンシカが好む環境条件：小山泰弘（長野県林業総合センター）ら	I2 攪乱・圧縮を受けた森林土壌の低温条件下での回復：小野裕（信州大学）ら	討論・調整	討論・調整		
10:00	M3 <i>Quercus</i> 属の樹液に見られる酵母の種多様性：遠藤力也（理化学研究所）ら	L3 60年前の風倒後の倒木撤出が現在のシカの景観スケールでの分布に与える影響：鈴木智之（東京大学）ら	I3 タイ西部の熱帯季節節での森林動態と物質循環の長期観測：平井敬三（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	E4 ツリーシェルターが植栽苗に及ぼす効果のメタ解析：安部哲人（日本大学）	J8 森林流域のかく乱に伴う深流水の硝酸態窒素濃度の長期変動とその規定要因：勝山正則（京都府立大学）ら		
10:15	討論・調整	L4 皆伐・植栽地及びその周辺を利用するニホンシカの行動：犬場孝裕（静岡県西部農林事務所）	討論・調整	E5 人工光型植物工場における給水管理がカラマツ苗の成長に及ぼす影響：野末はつみ（信州大学）ら	J9 気象モデルを用いた台風に伴う森林災害を引き起こす強風の推定：吉岡真由美（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA））ら		
10:30	M4 御嶽山の優占針葉樹3種における外生菌根菌の群集構造と生育への影響：高津穂大（名古屋大学大学院）ら	討論・調整	I4 北海道苫小牧の落葉広葉樹林における火山灰埋没土壌中の炭素蓄積：保原達（酪農学園大学）ら	E6 海岸砂丘地のクロマツ保護樹による成長期の環境緩和効果：多山尚希（鳥取大学）ら	J10 風環境に対応した立木振動の変化：上村佳奈（信州大学）ら		
10:45	M5 外生菌根菌の菌糸伸長と分布決定に果たす温度の役割：小泉敬彦（東京農業大学）ら	L5 ナラ枯れの原因はどこまで説明されたのか？：小林正秀（京都府森林技術センター）	I5 スギ人工林域の炭素吸収量の将来予測—スギの面積縮小と高齢化の影響—：鳥山淳平（森林総合研究所九州支所）ら	討論・調整	討論・調整		
11:00	M6 Dynamics of soil properties and AMF communities in roots and soils of <i>Cryptomeria japonica</i> : DjotanKevin（東京大学）ら	L6 粘着性塗布剤によるナラ枯れ被害防除効果の検証：吉田智弘（東京農工大学）ら	I6 日本の森林土壌におけるメタン・CO2フラックスの時空間変動：森大善（森林総研九州）ら	E7 中国雲南省における森林保全の取り組みと植物利用文化への影響：王文（神戸大学）ら	J11 間伐が海岸線の津波及び風害抵抗性に及ぼす影響：鳥田宏行（苫小牧工業高等専門学校）ら		
11:15	M7 針葉樹林と広葉樹林の土壌細菌・真菌・線虫群集構造と共生ネットワーク構造：北上雄大（三重大学大学院）ら	L7 野外におけるイソプレンのカンゾノガキウムシ誘引効果：伊東康人（兵庫農技総セ）ら	I7 ヒノキ林における間伐が土壌の温室効果ガスフラックスに及ぼす影響：稲垣善之（森林総合研究所）ら	E8 低密度植栽と低コスト樹幹注入法により海岸クロマツ林は維持管理できるのか？：小倉晃（石川県農林総合研究センター 林業試験場）ら	J12 樹林を用いた鉄道防災機能に関する研究：足立啓二（東日本旅客鉄道株式会社）ら		
11:30	討論・調整	L8 寄主木樹冠内でのカンゾノガキウムシの捕獲：山崎理正（京都大学）ら	討論・調整	E9 人工林皆伐地とその周辺の地形が大型草食獣の採食強度に及ぼす影響：酒井敦（森林総合研究所）ら	J13 小規模室内延焼実験によるコナラ・スギ・アカマツ葉リター層の延焼速度：吉藤奈津子（森林総合研究所）ら		
11:45		討論・調整		討論・調整	討論・調整		
12:00							

研究発表題目（部門別口頭発表）3月10日 午前2/2

会場	413	431	432	441	442	443	541
開始時刻	風致・観光 2		利用 1	経営 3			
9:00	B4 大雪山国立公園における登山道維持の課題と登山者参加：菱甲哲也（北海道大学）ら		K1 数値シミュレーションを用いた事業計画ツールと木材利用への応用可能性：金子竣亮（東京大学大学院）ら	D21 2周波 GNSS 測位における植生と地形の影響評価：吉井達樹（名古屋大学）ら			
9:15	B5 支笏湖の適正利用を目的とした費用負担導入に対する利用者意識：深津幸太郎（北海道大学）ら	林政 2	K2 林業作業におけるウェアラブルセンサを用いた作業種と心身状態の予測：榎本真（BIPROGY 株式会社）ら	D22 3次元レーザーを用いた森林内空間解析：加藤顕（千葉大学）ら			
9:30	B6 自然公園の基金制度から発表取消	A19 Evaluation and Prediction of Economic Impacts of Cross-Laminated Timber Manufacturing in Japan: 劉夢媛（東京農工大学）	K3 ROSを用いたグループローダー自動制御手法の開発：伊藤崇之（森林総合研究所）ら	D23 地すべりに対する土壌と樹木の傾きとの関係：若林日菜（千葉大学）ら			
9:45	討論・調整	A20 家具用国産広葉樹材供給拡大への条件解明ー流通規格の必要性：天野智将（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整	討論・調整	植物生態 1	生理	
10:00	B7 野付風蓮道立自然公園の国立公園化における管理有効性評価の活用：井上貴央（北海道大学）ら	A21 愛媛大学演習林における広葉樹材の活用に関する一考察：川崎章恵（愛媛大学）ら	K4 小規模熱利用に供する燃料用木質チップを生産する移動式切削チップの性能：竹内大歐（東京農工大学）ら	D24 LiDAR データを活用した非経済林管理の DX 化：田中和博（京都先端科学大学）ら	H1 気候変動下で北海道の天然林はどう変わる？動的植生モデルによる予測：佐藤永（海洋研究開発機構）ら	G1 イヌマキ苗木における乾燥に対する生理機能の脆弱性が樹冠衰退へ与える影響：高橋玄（千葉県森林総合研究センター）ら	
10:15	B8 林地のトレイルにおける多様なレクリエーション利用の地理的特徴：松浦俊也（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所	討論・調整	K5 車両系林業機械の走行が走行跡地に植栽したスギの活着と成長に及ぼす影響：松浦崇遠（富山県森林水産総合技術センター森林研究所）ら	D25 航空レーザーに基づく森林資源解析結果の森林計画制度への反映：塚原正之（アジア航測株式会社）	H2 MODIS による中国黄淮海の農作物 FVC 変動と因子反応：董徳進（九州大学）	G2 亜高山帯林における標高勾配に沿った樹木細根の吸水速度：増本泰河（信州大学大学院）ら	
10:30	B9 アルプス・折立太郎線登山道沿いの地形と人為的攪乱について：大宮徹（富山県森林水産総合技術センター 森林研究所）ら	A22 都道府県における省エネ健康住宅認証制度と木材の関わり：安村直樹（東京大学）	K6 中間土場による運材費の削減は経済的な再造林可能範囲を拡大出来るか：津田高明（地方独立行政法人 北海道立総合研究機構）ら	D26 航空レーザー計測データと過去の空中写真を用いた地位指数曲線の作成：村上拓彦（新潟大学）ら	H3 RTK-UAV を用いた地震由来の斜面崩壊跡地における初期の植生回復要因の把握：中田康隆（京都府立大学）ら	G3 Relationship between stem hydraulic conductivity and stomatal conductance sensitivity to VPD in Borneo's canopy trees.: 辻祥子（京都大学）ら	
10:45	討論・調整	A23 森林生態系サービス提供のための PES 等のイノベーション 欧州と日本の比較：柴田晋吾（上智大学）	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
11:00	B10 日本における観光ガイド従事者に関する研究動向の把握：武正憲（東洋大学）ら	A24 山林評価人に関する研究：大塚生美（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	K7 位置誘導装置による乗用型刈払い機（山もつとモット）の下刈り作業：渡辺一郎（地独）北海道立総合研究機構林業試験場）ら	D27 樹冠高データを用いたカラマツ樹高曲線の作成：不成績造林地を考慮して：蝦名益仁（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）ら	H4 暖温帯常緑広葉樹林における樹木の空間分布と地形依存性：蜂須賀莉子（鹿児島大学大学院）ら	G4 スギにおける樹幹 CO ₂ 放出速度に樹幹温度および木部分化帯幅が与える影響：平谷理人（信州大学大学院）ら	
11:15	B11 在日外国人を対象にした三瓶山エリアの観光魅力度の評価：陳月（鳥取大学）ら	討論・調整	K8 根系の片側が除去された直後の立木の安定性：松本武（東京農工大学大学院）ら	D28 航空レーザー計測による単木樹高データを用いた最大積雪深と樹高成長の関係：大矢信次郎（長野県林業総合センター）	H5 ササ優占型成熟林におけるギャップサイズが林床植生に及ぼす影響：植田時保（筑波大学）ら	G5 雄性不稔遺伝子 <i>MS1</i> を変異させたケムシ編集スギの性質：西口満（森林総合研究所）ら	
11:30	B12 森林レンタル事業の利用者が好む森林風景：水内祐輔（東京大学）ら		討論・調整	D29 大規模航空機レーザー計測データと衛星画像を組み合わせた森林資源量の予測：志水克人（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所）ら	H6 ヒノキ人工林の小面積皆伐に対する林床植生の対応：洲崎燈子（豊田市文化研究所）ら	討論・調整	
11:45	討論・調整			討論・調整	討論・調整		
12:00							

研究発表題目（部門別口頭発表）3月10日 午後1/2

会場	331	332	341	342	343	411	412
13:00							
13:15							
13:30	ポスター発表コアタイム						
13:45							
14:00	特用林産	動物・昆虫 2	遺伝・育種	造林 2	防災・水文 3	教育 3	
14:15	N1 マツタケ子実発生量と期間別降水量の相関：古川仁（長野県林業総合センター）ら	L9 ピロウドカミキリの選好性樹種：江崎功二郎（石川県農林総合研究センター林業試験場）ら	F1 フトミズナラ <i>Quercus mongolicoides</i> の起源と分布拡大について：広木詔三（名古屋大学）ら	E10 ササ型林床ヒノキ人工林における間伐後の下層植生の発達様式：城田徹夫（信州大学）ら	J14 林地の屋根部と谷部における TERS 21 を用いた水分ポテンシャルの連続観測：関口寛人（森林総合研究所）ら	C10 高校における国内留学の課題に関する研究 一群馬島の O 高校を対象として一：小林雪菜（東京農業大学）ら	
14:30	N2 マツタケ発生不作 3 要因の検討 発表取消	L10 土壌由来の <i>Osccheius</i> 属線虫のマツノマダラカミキリ幼虫に対する接種試験：小澤壮太（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所）ら	F2 フトミズナラとミズナラが倒所的に分布する集団における形態形質の変異：玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー）ら	E11 秋田県生保内ブナ施業指標林における 47 年間の天然更新過程：杉田久志（元森林総合研究所）ら	J15 堆積岩斜面での土壌水分観測によって推定された流出機構と水収支：小島永裕（滋賀県琵琶湖環境科学センター）ら	C8 地域の自然素材を生かした環境教育：津田美子（小清水町立小清水小学校）ら (3月8日からここに移動)	
14:45	N3 クロモジのソーラーシェアリング作物としての可能性の検討：高橋輝昌（千葉大学）ら	L11 <i>Heterorhabditis</i> 属線虫の共生細菌のマツノマダラカミキリに対する殺虫活性：前原紀敏（森林総合研究所）ら	F3 無花粉スギ「爽春」の遺伝子を持つヘテロクローン間における花粉形成の比較：平塚理恵（東京慈恵会医科大学）ら	E12 天然生混交林の択伐施業下におけるミズナラの動態：吉田俊也（北海道大学）ら	J16 山地流域における豪雨時の流出応答を過去のデータから評価する：浅野友子（東京大学）ら	C12 サンプギを題材とした森林環境教育に基づく課題研究の実践：森田直之（東京都立科学技術高等学校）ら	
15:00	討論・調整	L12 モデル線虫を用いてマツノザイセンチュウの媒介昆虫認識メカニズムに迫る：桐野巴瑠（明治大学）ら	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
15:15		討論・調整	F4 高木化したカラマツ採種木の種子生産：二本松裕太（長野県林業総合センター）ら	E13 異なる間伐を行ったヒノキ人工林における幹成長と葉面回復の比較：宮本和樹（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	J17 Bedrock groundwater responses and its contribution to runoff generation processes in headwater catchments: NguyenThi My Linh (University of Agriculture and Technology) ら	C13 野外炊事で育てられる災害時に役立つ力：廣松桜侑（北海道教育大学岩見沢校）ら	
15:30		L13 栽培アラゲキクラゲから検出された線虫の伝播者について：津田格（岐阜県立森林文化アカデミー）ら	F5 マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ品種の育種基本品横断的な抵抗性評価：松永孝治（森林総合研究所 所林木育種センター九州育種場）ら	E14 ヒノキ人工林における幹成長のばらつきの評価：河野士竜（兵庫県立大学）ら	J18 堆積岩山地における基岩の透水性および保水性についての考察：正岡直也（京都大学）ら	C14 自然体験活動が小学生のレジリエンスに与える影響：若狭郁実（北海道教育大学岩見沢校）ら	
15:45		L14 寄生物観察のためのスズメバチ越冬女王の飼育：小坂肇（森林総合研究所）ら	F6 コンテナへ直挿したスギさし穂への施肥による成長促進効果：大平峰子（森林研究・整備機構森林総合研究所 所林木育種センター）ら	討論・調整	J19 堆積岩山地における湧水点分布と地形・地質の関係：福岡諒（京都大学）ら	C15 森林教育活動の効果検証に関する研究法の課題：山田亮（北海道教育大学岩見沢校）ら	
16:00		L15 微地形と植生は森林昆虫の捕食性を不均一にする：中辻宏平（東京農工大学）ら	討論・調整		討論・調整	C7 クビアカツヤカミキリの被害防除に向けて学校教育ができることを探る：倉林正（太田市立太田高等学校）ら (3月8日からここに移動)	
16:15		討論・調整				討論・調整	
16:30							
16:45							
17:00							
17:15							

研究発表題目（部門別口頭発表）3月10日 午後 2/2

会場	413	431	432	441	442	443	533
13:00	ポスター発表コアタイム						
13:15							
13:30							
13:45							
14:00	風致・観光 3	林政 4	利用 2	経営 4	植物生態 2		学会企画 5
14:15	B13 人々ほどの程度暑いと都市緑地・近郊林への訪問行動を変化させるのか？：庄子康（北海道大学）ら	A25 森林認証取得が事業体に及ぼした変化—浜松市の事例—：松本清貴（名古屋大学大学院）ら	K9 作業道の路面材料としての木質バイオマス発電由来クリンカアッシュの効果：鈴木保志（高知大学）ら	D30 UAV及び航空機レーザー計測による高密度点群を用いたエリアベース樹種判別：皇川健史（静岡県立農林環境専門職大学）ら	H7 ヒノキ人工林における定点撮影画像を用いた落葉フェノロジー推定手法の開発：花谷周亮（兵庫県立大学大学院）ら		中等教育連携推進 高校生ポスター 表彰式
14:30	B14 高温は都市緑地・近郊林の訪問者数を変化させたか？：ビックデータによる解析：若山菜央（北海道大学）ら	A26 日本の木材市場における価格伝達に関する計量時系列分析：植熊悠宇至（森林総合研究所）	K10 産業連関分析による木製山ダム建設の温室効果ガス排出量：藤田智都（秋田県立大学）ら	D31 UAV画像と深層学習によるマツ枯れ被害木の検出：小林裕之（富山県農林水産総合技術センター）	H8 順次展葉するダケカンバ幼樹の総一次生産と葉群形質の関係：柘植匡（筑波大学大学院）ら		
14:45	B15 他の趣味と比較した森林散策とメンタルヘルスとの関連：J-MICO 大幸研究：森田えみ（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	A27 神奈川県相模原市青根地区および鳥屋地区における拡大造林の実態：松本湧成（東京農工大学大学院）ら	K11 ボトムアップ推計による市区町村別木質バイオマスポテンシャルの分布特性：小野遠河（東北大学大学院）ら	D32 周囲測量を考慮した各種計測機器の精度と時間の比較：今岡竜希（島根県立農林大学校）ら	H9 異なるマイクロハビタット間でのコケモモのシュート成長や葉特性の違い：井上みずき（日本大学文理学部）ら		
15:00	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	学会企画 6	
15:15	B16 山村の雑穀栽培及び利用方法の把握—石川黒白峰の3種類の雑穀を事例に—：上田隆太郎（名古屋大学大学院）ら	A28 発表取消	K12 地域における未利用森林バイオマス資源の効率的な供給システムの検討：黒田浩太郎（東京大学大学院）ら	D33 デジタル航空機写真測量によるスギ林の林分材積推定：小谷英司（森林総合研究所）	H10 Variations in seed dispersal in terms of landscape scale: a study from a temperate forest: WijenayakePavithra (Forestry and Forest Products Institute) ら	日林誌 日林誌のウラガワ	
15:30	B17 森林の多面的機能の経済評価：豆野皓太（東北大学）ら	A29 連合国占領下の京都市におけるゴルフ場建設と京都大学上賀茂試験地の移転：坂野上なお（京都大学）	K13 3次元レーザーを用いた樹形特徴の聴覚的表現手法の確立：笠原真珠（千葉大学）ら	D34 衛星データと深層学習を用いた、全県森林変化域検出の試み 3：渡邊学（東京電機大学）ら	H11 天然林におけるヒノキの種子生産とカラムシ類による吸汁被害の年変動：野口麻穂子（森林総合研究所東北支所）ら		
15:45	B18 福木屋敷林の持続可能な保全—生態系機能評価と管理手法の確立—：陳碧霞（琉球大学）	A30 近代東アジアへの林学普及におけるアメリカの影響と特徴：平野悠一郎（森林総合研究所）	討論・調整	D35 The global deforestation overview: A high-resolution perspective: NguyenTien Hoang (Research Institute for Humanity and Nature) ら	討論・調整		
16:00	討論・調整	討論・調整		討論・調整			
16:15							
16:30							
16:45							
17:00			閉会式				
17:15							

研究発表題目（学会企画） 3月11日

会場	313	331
開始時刻	学会企画 7	
12:00	社会連携 森林科学を学んだらどんな 仕事があるのか？ Part2	
12:15		
12:30		
12:45		学会企画 7
13:00		社会連携 森林・林業分野 職業研究会 コアタイム 13:00 - 15:00 16:00 撤収
13:15		
13:30		
13:45		
14:00		
14:15		
14:30		
14:45		
15:00		
15:15		
15:30		
15:45		
16:00		
16:15		

研究発表題目（ポスター発表）

林政		風致・観光	教育	経営
3/8 掲示分	PA-16 中山間地域等直接支払制度による限界的農地の林地化：大分県竹田市の事例：御田成顕（森林総合研究所東北支所）ら	3/8 掲示分	3/8 掲示分	3/8 掲示分
PA-1 # アンケート調査による森林カーボンクレジットの購入動機分析：渡邊匠海（新潟大学）ら	PA-17 地方政府はなぜ林業公社を廃止しなかったのか：泉桂子（岩手県立大学）	PB-1 # 都市部の小公園が有するエコロジカルネットワーク機能の経済的価値評価：大谷里菜（京都大学）ら	PC-1 # 森林環境教育にみる白神山地の活用可能性：西連寺麻友（日本大学大学院）ら	PD-1 # カンボジアにおける森林景観構造の時空間解析：趙恵敏（九州大学）ら
PA-2 # 造林立地と主伐・再造林率の関係—2010年代後半の3道県データを基に—：上野竜大生（九州大学院生物資源環境科学府）ら	PA-18 「官報」に報告された明治期日本の森林被害：高畑義啓（森林研究・整備機構 森林総合研究所）	PB-2 # 国立公園の計画策定過程における関係者間の協議・協力の実態について：谷田康一（滋賀県立大学院）ら	PC-2 # 高尾山自然休養林における教育の場としての検討：植竹宗雄（日本大学大学院）ら	PD-2 # 九州における再造林放棄地の約20年後の再造林・天然更新状況とその要因：教重涼子（九州大学）ら
PA-3 # 森林管理における公民連携手法の比較：国有林分取造林と公社造林を中心に：陳田（東京大学）ら	PA-19 Reevaluation of manmade rivers in early modern times in Japan: Goyogawa River, Utsunomiya City: 山本美穂（宇都宮大学）	PB-3 # 伊豆大島における地域住民による自然環境の保全活動の参加要因：渡邊寛明（筑波大学）ら	PC-3 # アニメーションを使った熱帯林保全のための環境教育の構築と評価：趙晶（鳥取大学）ら	PD-3 # 統計的因果推論に基づく保安林が皆伐に与える影響の評価：古田光樹（九州大学）ら
PA-4 # FSC 認証紙製品の価格プレミアム発生に関する検証：選択型実験を用いて：冨塚雅之（京都大学）	PA-20 防護柵事業を森林施業に組み込むための要件：高柳教（京都大学）	PB-4 # 日本における樹木葬のための森林管理：尤皖安（東京大学）ら	PC-4 # 西多摩地区の二つの中学校における森林に関する認識の比較：木谷光希（日本大学）ら	PD-4 # 再造林率が木材生産と炭素放出 発表取消
PA-5 # 森林組合と福祉事業体による林福連携の成立可能性：保積和奏（京都大学）	PA-21 林業現場で語り継がれる口伝：奥山洋一郎（鹿児島大学）ら		PC-5 # 郷土料理に使われている特用林産物には何があるのか？：米澤奏（日本大学）ら	PD-5 # Impact of the Indonesian capital relocation on watershed ecosystem services: GizawiAgie（三重大学）ら
PA-6 # 野生動物管理の政策ネットワーク可視化：言説ネットワーク分析の可能性：古賀達也（京都大学大学院）	PA-22 森林経営の統合的評価枠組みの開発：峰尾恵人（京都大学）ら	3/10 掲示分	PC-6 # 伝統的工芸品にみる森林資源を活用する課題：小林龍樹（日本大学）ら	PD-6 # カンボジアにおけるコミュニティ林業による森林保全効果の要因解析：小野田深（九州大学）ら
PA-7 # 民有保安林の持続可能性～鳥取県を事例に～：小林伸太郎（鳥取大学）ら	PA-23 本頁バイオマス発電の社会的な費用 発表取消	PB-5 ツシマヤマメコ生息地における里山利用の実態と変遷：安達湧吾（日本大学大学院）ら	PC-7 # 木育教室「海岸防災林を構成する樹木の特性を学ぶ」の開発・実施・評価：大西春帆（長野大学）ら	PD-7 # 栃木県鹿沼市における ALS データを活用した森林の多面的機能評価：菊地真以（宇都宮大学大学院）ら
PA-8 # Comparative Analysis of Stakeholder Consciousness on Logging Using AHP: choiteaheon (Kangwon University) ら →3月10日掲示に変更	PA-24 川瀬善太郎『林政要論』改訂版草稿をめぐって：古井戸宏通（東京大学）ら	PB-6 長野県阿智村における地域行事に用いられる生物資源：小林弘樹（日本大学大学院）ら	PC-8 # 林業大学校で学ぶ学生の変化—コロナ拡大前とコロナ禍の比較—：小川高広（京都大学大学院）	PD-8 # シミュレーションによる空中ビタ—リフ法の評価：小澤瑞樹（近畿大学大学院）ら
PA-9 # 福島県内の放置竹林実態：兼子喜史（福島大学）ら		PB-7 樹種分布による GIS を用いた遊歩道設計：黒瀬海晴（京都府立大学大学院）ら	PC-9 学校林植栽樹種の教育目的：田中千賀子（武蔵野美術大学）ら	PD-9 # 立地環境に基づく地位指数推定手法の比較検証：上岡洸太（京都府立大学）ら
PA-10 # 国立公園の整備費用のあり方に関する研究：竹内祐輔（福島大学）ら		PB-8 六甲山の森林管理をめぐるステークホルダーの関心事項の分析：田畑智博（神戸大学）ら	PC-10 ケニア・エランガタウワスのマサイ族集落における社会林業の取り組みと成果：中山紘之（岡山理科大学）ら	PD-10 # Exploring the Relationship between Organic Carbon and Soil Properties in Japanese Cedar Plantations: チョーウィン（The University of Tokyo）ら
PA-11 # 三宅島の富賀神社大祭から考える防災コミュニティの構築：小川夏帆（東京農業大学）ら		PB-9 森林ウォーキングによる身体的影響—心拍変動解析を用いた評価の試み—：松原恵理（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	PC-11 大学農場における短時間の里山実習の成果と限界：倉本直（明治大学）ら	PD-11 # 勾配間伐処理におけるセルロース 発表取消
PA-12 # 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の効果と問題点：倪寛（東京大学）ら		PB-10 観光資源としてのワサビの現状と課題：田中伸彦（東海大学）ら		PD-12 # プナ天然林における UAV LiDAR を用いた LAI 計測手法の比較・検証：仮屋園純平（東京大学大学院）ら
		PB-11 土地所有からみたヨーロッパ諸国における都市林の生成と発展：胡睿喆（東京大学）ら		PD-13 # UAV-LiDAR データを活用した林内日射量と林床面蒸発の推定：高村詩央里（筑波大学）ら
3/10 掲示分		PB-12 狭山丘陵のコナラ二次林におけるナラ類集団枯損の動態：平塚基志（早稲田大学）ら		PD-14 # Application of UAV-LiDAR data in analyzing the allometric relationships of over a hundred tree species across Japan: HTOOKYaw Kyaw (Kyoto University) ら
PA-13 県立森林公園のバリアフリー化とその利用の現状：高田乃倫予（岩手大学）				PD-15 # UAV-LiDAR を用いたカラマツの単木樹幹検出と自動計測：ヤンカメイ（東京大学）ら
PA-14 田上山の森林伐採による生態系サービスへの影響：InVEST による推定：高橋卓也（滋賀県立大学）ら				PD-16 # 無人ヘリ LiDAR による若齢林の森林資源量推定：小林紀晴（宇都宮大学農学部）ら
PA-15 学際研究プロジェクト「森林の価値とは—森と生きるひとと社会の未来像—」：大手信人（京都大学）ら				PD-17 # ラジコンヘリ LiDAR データを用いたプナ林の単木情報解析：許明琪（新潟大学）ら

研究発表題目 (ポスター発表)

経営		造林	
PD-18 # 植栽地時系列比較のための UAV 空撮画像の相対的位置統合: 大槻峻介 (名古屋大学) ら	PD-36 # Land Use and Land Cover Classification of Mangrove Area in Myanmar Using Deep Learning and Remote Sensing Dataset. Win Sithu Maung (The University of Tokyo) ら	PD-53 小型のバックパック型 LiDAR 計測システムによる森林計測データの検証: 土井給介 (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所) ら	PE-16 切り残した幹の伐採がコナラ萌芽枝の生残と成長に与える影響: 伊藤幸介 (新潟県森林研究所) ら
PD-19 # 竹林の拡大評価における UAV および SfM-MVS による画像解析の活用: 小笠原良 (京都大学) ら		PD-54 地上型 3D レーザースキャナを用いたスギ根元曲がり木の評価: 関子光太郎 (富山県農林水産総合技術センター森林研究所)	PE-1 # ミズナラ若齢林の保育: 成長と樹形に着目した種内・種間競争の影響解析: 原谷日菜 (北海道大学) ら
PD-20 # Detecting high-value hardwood trees using deep learning algorithm with unmanned aerial vehicle (UAV) imagery: トウニヨミイ (The University of Tokyo) ら	3/10 掲示分	PD-55 ドローン LiDAR と地上 LiDAR を組み合わせた森林生態学研究の新展開: 竹重龍一 (京都大学) ら	PE-2 # 間伐年度の違いと下刈りの有無がブナ当年生実生の生存・成長に与える影響: 庄司風 (新潟大学) ら
PD-21 # Estimating structural parameters of a complex mixed conifer-broadleaf forest using UAV photogrammetry: カリティゲスジェヤナ (Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) ら	PD-37 高知県におけるスギ・ヒノキの「フェアプライス」: 守口海 (高知大学) ら	PD-56 UAV-LiDAR を使った全国各地の長期観察林の樹冠調査: 小野田雄介 (京都大学) ら	PE-3 # 挿し床を変えた水挿しにおける挿し穂の成長: 戸田翔子 (東京農業大学) ら
PD-22 # 深層学習を用いた高解像度 UAV 画像からの広葉樹の樹種分類: 大原圭太郎 (鳥取大学) ら	PD-38 伐採の空間分布に関する県ごとの要因の予備的分析: 山田祐亮 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	PD-57 DF LAT: UAV-LiDAR データから森林利用点群処理ソフトウェアの開発と応用: 大西信隆 (京都大学 / DeepForest Technologies 株式会社) ら	PE-4 # 多摩地域の人工林での天然更新による広葉樹の導入: 新井勝利 (東京農工大学) ら
PD-23 # 汎用 CNN を用いたドローン空撮画像からの照葉樹種判別: 大中昭徳 (高知大学) ら	PD-39 森林計測制度における施策の実施基準の再検討~皆伐面積上限について: 溝上展也 (九州大学) ら	PD-58 森林域における RTK-GNSS 搭載 UAV 測量の位置精度: 加治佐剛 (鹿児島大学農学部) ら	PE-5 # 東京都東久留米市の高齢化した雑木林における伐採後の萌芽状況: 伊澤麻里 (自由学園最高等学校 (大学部)) ら
PD-24 # 学習方法の違いによる深層学習モデルを用いた三次元スギ樹冠抽出精度の評価: 相原直生 (宮崎大学大学院) ら	PD-40 森林資源を活用した地域活性化に向けた活動~朝霧キャンパスポルシェ~: 佐藤孝吉 (東京農業大学) ら	PD-59 森林境界明確化事業における高密度航空レーザ測量データの活用: 滝澤みちる (株式会社バスコ) ら	PE-6 # 放置広葉樹林の再生 - 萌芽更新の可能性 -: 森田博平 (福島大学) ら
PD-25 # 航空機 LiDAR データを用いた佐渡島の管理放棄スギ人工林抽出方法の検討: 佐藤楓 (新潟大学大学院) ら	PD-41 鳥取県における山地災害リスクを考慮した森林区分への取組: 矢部浩 (鳥取県林業試験場) ら	PD-60 航空機 LiDAR データによる人工林の管理状況の把握: 高橋興明 (森林総合研究所九州支所) ら	PE-7 # 遺伝子発現から見た酢酸によるスギ苗の細根の吸水抑制機構の検討: 小林裕子 (東京大学大学院) ら
PD-26 # 航空レーザ測量データを用いた地形因子によるスギの地位指数推定の精度検証: 垣田珠名 (京都府立大学) ら	PD-42 Monitoring tropical forest degradation and deforestation in two municipalities within the Brazilian Amazon rainforest: ノグエイラ, ロベスタニエル (The University of Tokyo) ら	PD-61 航空レーザ測量データと地形指数を用いたスギ造林不適地の抽出: 千葉翔 (山形県森林研究研修センター)	PE-8 # モンゴル北部のカラマツ・シラカバハの混交状態とハイオマス: 飯田義人 (信州大学) ら
PD-27 # LiDAR を利用したスギ立木強度の推定~立地環境・樹冠情報との関係~: 原田喜一 (京都府立大学大学院) ら	PD-44 スギ一斉人工林における樹冠競争を加味した局所密度と単木の成長: 田中邦宏 ((国研) 森林総合研究所 関西支所)	PD-62 航空レーザ測量による森林資源解析のための汎用胸高直径推定式作成: 藤井創一朗 (アジア航測株式会社)	PE-9 # ヒノキ人工林への堅果供給における野ネズミの貯食行動の貢献: 田中湧也 (静岡大学) ら
PD-28 # 航空レーザ測量データによる森林構造指標を考慮した林相分類手法の検討: 北野陽大 (京都府立大学) ら	PD-45 NFI データを用いた広葉樹資源量把握手法の検討: 北原文章 (森林総合研究所) ら	PD-63 航空機 Lidar による森林資源解析における DCHM の補正に関する検討: 前田佳子 (国際航業 (株)) ら	PE-10 # ミズナラ二次林における樹材適性を持つ個体の特性と育成の可能性: 仲谷朗 (北海道大学) ら
PD-29 # J-クレジット制度の森林モニタリングにおける航空機 LiDAR の有用性: 沼間芳野 (新潟大学) ら	PD-46 群状複層林における個体の成長パターン: 大分県由布市の事例: 太田徹志 (九州大学) ら	PD-64 航空レーザデータによる作業道規格の計測: 鈴木秀典 (森林総合研究所) ら	PE-11 # ビートバルブ給餌がシカ嗜好性樹種の樹皮はぎ被害と個体群構造に与える影響: 多田雄治郎 (東京農業大学) ら
PD-30 # 深層学習を用いた航空機 LiDAR による竹林抽出精度評価: 西山明慶 (名古屋大学) ら	PD-47 久万高野町スギ群状伐採林の後継樹の成長と隣接後継樹エリアの検討: 豊田信行 (海岳森林技術士事務所)	PD-65 Forest/non-forest mapping with StriX X-band SAR images based on semantic segmentation: 宇田拓史 (株式会社 Synsense) ら	PE-12 # キイチゴ類が繁茂した南アルプス大規模雪崩跡地の高木種実生の更新状況: 永田慈夢 (信州大学) ら
PD-31 # Dynamic World に基づく森林擾乱要因の推定: 日本とマニラの事例研究: 李哲 (九州大学) ら	PD-48 品質保証するためのクローン管理技術の体系化: 田村美帆 (株式会社竹谷商事) ら	PD-66 衛星画像による単木レベル森林計測精度の検討~航空機 LiDAR との比較~: 山本一清 (名古屋大学) ら	PE-13 # ヒノキ林縁個体の 1 次枝と 2 次枝における心材と辺材の軸方向分布: 伊藤太陽 (信州大学) ら
PD-32 # 栃木県における衛星データの機械学習分類による竹林分布モニタリング: 清野咲花 (宇都宮大学) ら	PD-49 スギ人工林における強度間伐後の樹冠閉鎖: 飯田玲奈 (群馬県林業試験場) ら	PD-67 GEDI データによる森林資源量の解析: 小橋進平 (森林総合研究所)	PE-14 # 林冠が再開した壮齡にノキ人工林におけるムラサキシキブの樹形の構造特性: 牧野遼詩 (信州大学) ら
PD-33 # PlanetScope を用いた福岡県における竹林分布の把握: 内山優布奈 (九州大学大学院) ら	PD-50 林業経営面から見たクマクズ被害抑制のための方策: 石橋登司 (東京大学) ら	PD-68 時系列 Landsat データを用いた森林タイプ分類の試行: 田中真哉 (国立研究開発法人森林研究・整備機構) ら	PE-31 下刈り方法の違いがカラマツ植栽苗の成長とシカ被害に及ぼす影響: 池本晋吉 (鳥取県林業試験場)
PD-34 # Combining Graph and Convolutional Neural Networks with multi-sensor remote sensing for forest type classification: 慧卿妻 (The University of Tokyo) ら	PD-51 地上レーザ計測による広葉樹が侵入したマツ林の調査: 村川直美子 (山形県森林研究研修センター) ら	PD-69 長期時系列空間データによる足尾山地復旧過程モニタリング: 松英恵吾 (宇都宮大学)	PE-32 鳥取県におけるスギ当年生コンテナ苗の初期成長: 赤井広野 (鳥取県林業試験場)
PD-35 # Forest Change Detection in Solomon Islands using Multi-temporal Satellite Data: BeuMcJessey Leon Brian (Nigata University) ら	PD-52 地上レーザ計測による出材量予測の精度評価: 有元かれん (鹿児島大学) ら		PE-15 オニグルミの更新初期における生育特性および好適な立地環境: 山崎暁 (岩手大学) ら
			PE-33 海岸クロマツ林の植栽密度が植栽 9 年目の生存率及び樹高成長に及ぼす影響: 小林真生子 (千葉県農林総合研究センター) ら
			PE-20 海岸砂丘地に植栽した広葉樹に対するクマクズ被害の効果: 山中啓介 (鳥取大学) ら
			PE-21 ヘリコプターによる殺そ剤散布とエゾヤチネズミの駆除効果: 南野一博 (道総研 林業試験場) ら
			PE-22 岩手県でのアカマツ林の樹種転換: 皆伐 5 年後の天然更新区とカラマツ植栽区: 澤田佳美 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
			PE-23 大谷ヶ原の防風柵内におけるササノ苗の細根の吸水抑制機構の検討: 小林裕子 (東京大学大学院) ら
			PE-24 スギ人工林低密度植栽試験地における成長量と 11 年次の心材波伝播速度: 西原寿明 (愛媛県農林水産研究所) ら
			PE-25 異なるシカ生息密度環境下における植栽 9 樹種の成長動態: 中川漢太 (兵庫県農林水産技術総合センター) ら
			PE-26 スギコンテナ苗の根の伸長能力は育苗に使用した容器によって異なる: 山中豪 (三重県農林試験場) ら
			PE-27 Germination and cultivation experiments for the production of seedlings of useful tree species in Malawi: 高橋一秋 (長野大学) ら

研究発表題目（ポスター発表）

造林		遺伝・育種		
PE-34 石川県におけるカラマツ人工林の現況：富沢裕子（石川県農林総合研究センター林業試験場）ら	PE-52 出荷適正サイズ維持のために切り戻したブナ苗木の成長と樹形への影響：田中樹己（新潟県森林研究所）ら	3/8 揭示分	PF-18 関西育種基本区におけるヒノキさし木植栽試験：磯田圭哉（森林総合研究所林木育種センター関西育種場）ら	PF-35 ゴイマツの球果含水率と種子散布との関係：生方正俊（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら
PE-35 低密度植栽における節及び枝の状況：松本純（大分県）	PE-53 令和4年における北部九州産ブナ種子の生産量および健全度：作田耕太郎（九州大学）ら	PF-1 ヒノキのゲノム編集に向けた遺伝子組換え系の効率化：小長谷賀一（森林研究・整備機構）ら	PF-19 # 高標高地におけるサワラの繁殖様式の推定：村田幸哉（名古屋大学）ら	PF-36 関東育種基本区ヒノキ精英樹クローンのジベレリン処理による雄花着花量評価：坪村美代子（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
PE-36 九州産スギ6品種の地上部一次生産量と窒素利用：榎木勉（九州大学）ら	PE-54 半島マレーシアの生態系修復植林地における植栽木の20年間の成長：米田令仁（森林総合研究所）ら	PF-2 # CRISPR-Cas9 ゲノム編集によるmiRNA156a/168aの発現抑制：岡部信（東京大学）ら	PF-37 若齢時におけるスギ特定母樹のジベレリン処理による雄花着生性：宮下久哉（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場）ら	PF-38 スギ閉鎖型採種園における時期別ジベレリン処理による雄花着花数：庄司優太（鳥取県中山間地域研究センター）
PE-37 山梨県におけるスギの樹高成長曲線の修正：長谷川高平（山梨県森林総合研究所）ら	PE-55 100年生ヒノキ人工林における材積成長：石井弘明（神戸大学）ら	PF-3 多様なスギ系統の成長形質と相関のある発現遺伝子と遺伝的変異の検出：永野総一郎（森林研究・整備機構）ら	3/10 揭示分	PF-39 スギミニチュア採種園の植栽木の根系および窒素含有量：宮本尚子（森林総合研究所林木育種センター東北育種場）ら
PE-38 ALS データと機械学習を利用した樹高推定にもつづく新たな地位マップ：壁谷大介（森林総合研究所）ら	PE-56 スギ採種園で異なる母樹個体から採取した種子の特性：藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）	PF-4 # 異なる期間の土壌乾燥ストレスに対するブナ実生の発現変動遺伝子の探索：青日栗子（三重大学）ら	PF-20 ブナ林冠木の局所集団における一塩基多型の分布様式：鳥丸猛（三重大学）ら	PF-40 根域抑制栽培したヒノキ少花粉品種の種子生産について：西川浩己（山梨県森林総合研究所）ら
PE-39 茨城県中部の造林地において斜面位置によるスギ苗木の成長の違いとその要因：齋藤隆実（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら		PF-5 日本の主要高木種の遺伝的適応：ブナ集団における自然選択の探索：佐藤祐祐（名古屋大学大学院）ら	PF-21 生育環境の違いによる、梁井吉野の全ゲノムメチル化比較：松本麻子（国研 森林総合研究所）ら	PF-41 エゾマツ交配園における着果の状況 - 一球果重量に見られる年次変動 -：加藤一隆（森林総合研究所林木育種センター北海道育種場）
PE-40 オノエヤナギの伐採時期および伐採方法が萌芽発生量に与える影響：矢野慶介（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場）ら		PF-6 # 候補遺伝子アプローチを用いたブナ集団における自然選択の探索：佐藤祐祐（名古屋大学大学院）ら	PF-22 自然集団での雑種崩壊の理解に向けたサクラ属実生における遺伝子発現解析：鶴田燃海（森林総合研究所）	PF-42 山形県内に造成した花粉の少ないスギ品種による採種園の種子生産性：宮下智弘（山形県森林研究研修センター）ら
PE-41 持続的な広葉樹林施策を目指して資源量から伐採・搬出・更新を考える：齋藤智之（森林総合研究所 東北支所）ら		PF-7 タカネザクラ集団の環境適応遺伝変異の空間モデリング：加藤珠理（多摩森林科学園）ら	PF-23 カラマツ着花変異系統を用いた雌花着花に関わる遺伝子座の探索：三嶋賢太郎（森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場）ら	
PE-42 流域界ごとの環境不均一性とスギ樹高成長：中尾勝洋（森林総合研究所）		PF-8 # Genome Wide Association Study for growth traits using teak progeny trial at Ngawi, Indonesia: MeinataAlnus (University of Tsukuba) ら	PF-24 針葉トランスクリプトームの季節変化におけるゴイマツ雑種 F ₂ の特性：福田陽子（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター北海道育種場）ら	
PE-43 半島マレーシアにおけるフタバギ科樹木の葉と材の形質特性と成長の関係：田中憲蔵（国際農林水産業研究センター）ら		PF-9 # 熱帯アジア有用樹種・チークの遺伝構造と遺伝的環境関連性の解明：小沼佑之介（筑波大学大学院）ら	PF-25 トランスクリプトーム解析からみた耐乾性の異なるスギ系統の乾燥応答の違い：能勢美峰（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター）ら	
PE-44 ウダイカンパの定着が豪雪地に植栽したブナに及ぼす影響：沼宮内信之（秋田県林業研究研修センター）ら		PF-10 # 磐越地域に分布するクロモジ2変種の遺伝構造と葉の形態：吉川太一（新潟大学大学院）ら	PF-27 核 SSR マーカーに基づく九州の第二世代ヒノキ交配園における交配形態：岩泉正和（森林総合研究所林木育種センター九州育種場）ら	
PE-45 林冠ギャップ形成後の低木層による機械はブナ天然更新を阻害するのか？：柴田嶺（新潟大学）ら		PF-11 多検体全ゲノムが描くミズナラコナラ交雑種の遺伝的ダイナミクス：伊藤僚祐（京都大学）ら	PF-28 ヒノキの薬剤感受性に関する遺伝学的研究：平尾知士（森林総合研究所林木育種センター）ら	
PE-46 落下した球果から採種したコウヨウザン種子の発芽率：藤田徹（京都府農林水産技術センター）		PF-12 # 近畿地方の里山林に生育するコナラの遺伝構造：三上夏生（東京大学）ら	PF-29 スギ広域産地試験地における植栽5年次までの生存・成長：三浦真弘（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	
PE-47 ヒノキ植栽地の枝葉積みが広葉樹の侵入に及ぼす影響：宇敷京介（岐阜県森林研究所）ら		PF-13 # カエデ属 <i>Palmata</i> 節6種の狭父山地における葉緑体 DNA の種間及び種内変異：戸口侑紀（日本女子大学大学院）ら	PF-30 全国5箇所のアカマツ産地試験地における植栽後5年の成長特性：那須仁弥（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場）ら	
PE-48 秋施肥がスギコンテナ苗の耐凍性と翌春の成長に及ぼす影響：飛田博順（森林総合研究所）ら		PF-14 葉緑体 DNA シーケンスによるキハダの系統地理：稲永路子（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター）ら	PF-31 スギ雪害抵抗性検定林の10年次データを用いた解析：井城泰一（森林総合研究所林木育種センター東北育種場）ら	
PE-49 自記式デンドロメーターによる漆掻き樹木幹周囲長の日変化と季節変化：白旗学（岩手大学）ら		PF-15 # 日本国内で見られるキリ属植物の遺伝的多様性：長沢和（宇都宮大学大学院）ら	PF-32 アカエゾマツの根元曲がりと幹曲がりの抵抗性に家系間差が生じる要因：花岡創（静岡大学）ら	
PE-50 雑草本との競合下におけるスギ植栽木の成長に及ぼす被陰樹冠量の影響：山川博美（森林総合研究所九州支所）ら		PF-16 ゴイマツ雑種 F ₂ の挿し木増殖における多年生台木から採取した枝の発根率：中川昌彦（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）	PF-33 マツ材線虫病被害地から選抜したアカマツ抵抗性候補木の材質形質の評価：丹羽花恵（岩手県林業技術センター）ら	
PE-51 壮齢スギ人工林における収穫間伐後15年間の下層植生の変化：塚原雅美（新潟県森林研究所）ら		PF-17 # センダン挿し木を利用した難発根性要因の検証：室永藤子（九州大学）ら	PF-34 9年生スギエリートツリーと従来種苗との応力波伝播速度の比較：田口裕人（愛媛県農林水産研究所林業研究センター）ら	

研究発表題目 (ポスター発表)

生理		植物生態		
3/8 掲示分	PG-18 # STS 処理によるエチレン作用阻害がヒノキ科樹木の幹の傷害応答に及ぼす影響: 竹田真子 (鳥取大学大学院) ら	PG-34 炭水化物の季節変化から読み解く常緑広葉樹における繁殖戦略: 韓慶民 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら	3/8 掲示分	PH-18 # 自然性の高い緑化地創出に向けた緑化地と周辺天然林の森林構造比較: 奥山颯大 (神戸大学) ら
PG-1 # 幹枝内クロロフィル量の樹種による違いと周皮透過率との関係: 岡田乃安 (静岡大学) ら	PG-19 # ユーカリ属における葉内ポリフェノール含有量の種間比較: 永嶋春輝 (東京農工大学大学院) ら	PG-35 大気二酸化炭素濃度と樹根共生がブナ実生の光合成能力に及ぼす影響: 赤路康朗 (国立環境研究所) ら	PH-1 # シカ・イノシシ利用頻度の異なるナラ柱れ被害地の更新可能性: 加藤大樹 (東京大学) ら	PH-19 # 広葉樹における立地環境と分布ポテンシャルの関係: 山下淳也 (京都府立大学大学院) ら
PG-2 # 北方針広混交林2樹種の光合成電子伝達系に及ぼす高温下の光阻害: 松田侑樹 (北海道大学) ら		PG-36 クロマツ種木の成長特性へのマツ属中間台木の影響: 中島剛 (青森県産業技術センター 林業研究所)	PH-2 # 佐渡島のスギ・ブナ混交林の過去30年間における動態と攪乱の影響: 岡田柚佳 (新潟大学) ら	PH-20 # 多雪域スギ天然林の更新に枯死根株が果たす役割: 井上大嘉 (新潟大学) ら
PG-3 # ダケカンパにおける電子伝達速度と気孔コンダクタンスの産地間変異の評価: 中田修人 (静岡大学) ら	3/10 掲示分	PG-37 常緑樹の葉は落葉樹よりも強度が高いだけでなくより大きな変形に耐える: 梶野浩史 (東北大学) ら	PH-3 # シカの排除が樹木実生動態に及ぼす影響: 密度依存性とニッチ分化に着目して: 内藤英理香 (東京大学) ら	PH-21 # Topographical gradient of structure and diversity of the woody plant community in a seasonally dry forest in Madagascar: 藤本悠太郎 (京都大学) ら
PG-4 # Responses of cambium activity and xylem anatomy of <i>Cryptomeria japonica</i> clonal cultivars to experimental warming: 内山クリスマス (Kobe University) ら	PG-20 <i>Eucalyptus camaldulensis</i> の毛状根形質転換系の確立: 田原恒 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら		PH-4 # 奥秩父山地におけるシカ食害後の下層植生回復に対する光強度とシカ柵の効果: 笠間英恵 (千葉大学) ら	PH-22 # 佐渡島におけるブナとスギの生育場所の環境要因について: 岡田航大 (新潟大学) ら
PG-5 # 幹表面における見かけの呼吸商と樹液流によるCO ₂ 輸送量の比較: 齋藤彼方 (静岡大学) ら	PG-21 一過発現解析系を用いたユーカリの加水分解性タンニン生成遺伝子の探索: 山崎千尋 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら		PH-5 # シカ高密度化による土壌の養分・水分条件の変化が林冠木の成長に及ぼす影響: 長根由紀子 (酪農学園大学) ら	PH-23 # 兵庫県南東部の社叢林における20年間の植生動態: 任睿 (神戸大学) ら
PG-6 # Estimating stem respiration for different temperature tree species by mass balance method: 王萱雯 (静岡大学) ら	PG-22 ブナ樹冠の葉の長鎖ノンコーディング RNA 発現の年変動とマスティング: 斎藤秀之 (北海道大学) ら		PH-6 # シカ排除柵の内外におけるブナ成木の肥大成長量の比較: 阿部隼人 (九州大学) ら	PH-24 # 御明神演習林大滝沢試験地の針広混交林における32年間の動態: 宮澤優輔 (岩手大学) ら
PG-7 # 非構造性炭素の季節変化から見るヒメシャラの幹枝光合成の役割について: 加藤友梨香 (静岡大学) ら	PG-23 コナラにおける展葉制御機構の遺伝子発現解析: 小林正樹 (国際農林水産業研究センター) ら		PH-7 # モンゴル北部に生育する樹齡が異なるシラカンバの肥大成長の気候応答: 倉田遼大 (信州大学) ら	PH-26 # 暖温帯二次林と冷温帯老齢林における樹木群集動態と機能形質との関係: 策勒格爾 (名古屋大学) ら
PG-8 # ウリハダカエデで見られた早春の樹液滲出量・樹液糖度と繁殖状況との関係: 齋藤楓華 (岩手大学大学院) ら	PG-24 スギにおけるHKT系カリウムトランスポーター遺伝子の単離と解析: 細尾佳宏 (信州大学) ら		PH-8 # 気候変動下でササは森林の生産性にどのように影響するか?: 小幡愛 (東京大学) ら	PH-27 # Landsat 時系列データを用いた丹沢山地丹沢山の植生動態モニタリング: 大西一歩 (東京農業大学大学院)
PG-9 # 細根呼吸速度の樹種間比較: 非構造性炭水化物の季節変化からの探求: 橋本裕生 (信州大学) ら	PG-25 Physiological characteristics of <i>Cryptomeria japonica</i> during the dormant season in the warm-temperate region: 比江島尚真 (鹿児島大学) ら		PH-9 # 標高の違いに対するガンゴウランの表現型可塑性: 浅間山高山帯の事例: 近森雄作 (長野大学) ら	PH-28 # 大台ヶ原の針広混交林における森林面積の長期変動: 面積は減少しているか?: 田中紅羽 (三重大学) ら
PG-10 # 根圏低酸素と高温の複合ストレスに対する熱帯フトモモ科樹木の根の呼吸応答: 川江萌々香 (東京大学大学院) ら	PG-26 乾燥ストレスに対するスギおよびヒノキコンテナ苗の生理生態的反応: 小笠真由美 (森林総合研究所 関西支所) ら		PH-10 # クリの萌芽と潜伏芽の関係性について: 石原奏 (新潟大学) ら	PH-29 # ブナのマスティングが林床光環境と下層木の成長に与える影響: 大谷紀一 (静岡大学) ら
PG-11 # トドマツの加齢と個体サイズに依存した針葉の発現変動遺伝子と生理機能評価: 田嶋健人 (北海道大学) ら	PG-27 強い土壌乾燥に対するスギ・ヒノキ成木の樹液流速の応答: 釣田竜也 (森林総合研究所) ら		PH-11 # スギの成長速度における系統間差を決定する樹種特性について: 日下真枝 (京都大学大学院) ら	PH-30 # 冷温帯林における幹メタン放出の放射方向変動性: 長沢誠 (京都大学) ら
PG-12 # 光波長交換下で育てたカラマツ実生の葉の老化遅延に関する遺伝子発現解析: QIANGHAOYANG (北海道大学) ら	PG-28 土壌乾燥ストレスによるスギ苗木の回帰不能点について: 才木真太郎 (森林総合研究所) ら		PH-12 # サカキのシュート構造と光環境との関係: 岸大地 (京都府立大学大学院) ら	PH-31 # Aboveground net primary productivity in three major forest types in Cambodia: ThavSopheak (Nagoya University) ら
PG-13 # ブナ樹冠の葉の老化にともなう遺伝子発現パターンの変化: 前田唯真 (北海道大学) ら	PG-29 水ストレスに対するヒノキの着花特性とそのメカニズム: 福田拓実 (静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター) ら		PH-13 # モミ苗木における幹枝の形態とフェノロジー: 神代花穂 (京都府立大学) ら	
PG-14 # ダケカンパの葉形質の種内変異: 5つの産地試験林を用いた評価: 早川朋花 (静岡大学) ら	PG-30 永久凍土上のクロトウヒの肥大成長は森林火災後にどのように変化するか?: 大橋伸太 (森林総合研究所) ら		PH-14 # 冷温帯落葉広葉樹における UAV-LiDAR を用いた枝分布構造の種間比較: 谷瑞木 (静岡大学) ら	3/10 掲示分
PG-15 # 温帯性つる植物種の木部道管形質の地理変異は凍結対処戦略によって異なるか?: 日下部玄 (東京大学) ら	PG-31 九州山地のブナ林における土壌侵食による葉の生理学的特性への影響: 東若菜 (神戸大学) ら		PH-15 # 枝ビクセルの増減過程に着目した UAV による葉フェノロジーの評価: 田中秀英 (静岡大学) ら	PH-32 The effect of experimental extreme precipitation on the performance of trees planted after landslides: 曾瑞琪 (北海道大学) ら
PG-16 # スギ集団間の乾燥ストレスに対する生理学的適応機能の差異: 小切社仁 (神戸大学大学院) ら	PG-32 高温ストレス下での <i>Melaleuca cajuputi</i> の窒素の吸収と転流: 則定真利子 (東京大学) ら		PH-16 # LiDAR を用いた小流域における林床の光環境の評価: 福井喜一 (京都府立大学大学院) ら	PH-33 エコタイプの異なるブナの萌芽特性: 上村章 (森林総合研究所) ら
PG-17 # 材線虫病感染における壁孔の病変: 黄文倩 (東京大学) ら	PG-33 13C バルサラベリングを用いたスギ2品種の炭素配分の季節変動: 樋浦正子 (京都大学) ら		PH-17 # レーザ測量を用いた森林の臨界: 発表取消	PH-34 トドマツの雪害抵抗性に関連する枝形質の地域変異とゲノムワイド関連解析: 菅井徹人 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 北海道支所) ら

研究発表題目 (ポスター発表)

植物生態	立地	防災・水文
PH-35 ダケカンバ産地試験地における4年生苗の萌芽幹動態: 室谷楓香 (信州大学大学院) ら	3/8 掲示分	PI-33 バイオ炭およびスラグ肥料を施用したヤナギ3種の生存率と初期成長: 山田毅 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら 3/8 掲示分
PH-36 幹の伸長量・肥大量が多い年は枝成長も多いのか: クロトウヒの例: 田邊智子 (京都大学) ら	PI-1 # 九州北部の森林流域における大気窒素沈着量の減少下での高い河川硝酸塩濃度: 李周強 (九州大学) ら	PI-16 トドマツ心材含水率はなぜばつのか - 土壌を主とした各種要因との関係 - 米澤美咲 (北海道立総合研究機構林業試験場) ら PI-34 仙台青葉山丘陵に見られる下層に赤色層を持つ森林土壌の化学的的特性について: 佐野哲也 (東北工業大学) ら PJ-1 メタ統計的極値分布を用いた日本全域の確率雨量の推定: 経隆悠 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
PH-37 熱帯林から寒帯林までの個体量を推定する疑似ハイブモデルアルゴリズム: 隅田明洋 (京都府立大学) ら	PI-2 # 冷温帯林におけるミヤコザサ除去が根のバイオマスと形態形質に及ぼす影響: 付東川 (九州大学) ら	PI-17 土壌タイプの異なる森林における下層土壌の窒素無機化速度: 中山理智 (日本原子力研究開発機構) ら PJ-2 斜面崩壊に起因する流木発生プロセスの実験的検討: 酒井祐一 (宇都宮大学) ら
PH-38 序列化手法を用いた樹木根系構造の数値化: 新田響平 (秋田県林業研究研修センター) ら	PI-3 # 大気窒素沈着量の増加に対する上層木と下層植生の異なる応答性: 楊茹 (九州大学)	PI-18 シカはナトリウムをどこから得ているのか? ~堆肥と凍結防止剤中の計測~: 智和正明 (九州大学) ら PJ-3 生育基盤盛土に植栽されたクロマツの根返り耐性と根系分布の関係: 野口宏典 (森林総合研究所) ら
PH-39 ニセアカシアにおけるラメツ成長率と根萌芽発生数の関係: 元田多一 (秋田県立大学) ら	PI-4 # ヒノキの葉と細根のリター分解に及ぼす土壌の影響: 林亮太 (名古屋大学大学院) ら	PI-19 母材の異なる森林土壌におけるブライミング効果: 阿部有希子 (日本原子力研究開発機構) ら PJ-4 # 山形県庄内海岸林の立木密度や... 発表取消
PH-40 Soil respiration in a deciduous broadleaf forest under different vegetation management in Kanto region, central Japan: 矢崎友嗣 (明治大学) ら	PI-5 # 拡大造林1世代目のスギ・ヒノキ林土壌の特徴 - 広葉樹林からの転換 - : 佐藤大地 (名古屋大学) ら	PI-20 遺跡の花粉分析データに基づく縄文時代以降の四国における森林変遷: 志知幸治 (森林総合研究所) ら PJ-5 # 富山県入善海岸防災林におけるタブキとクロマツの引き倒し抵抗性: 佐々木綾香 (東京農業大学大学院) ら
PH-41 森林性低木ヤブコウジのアポミクシス: 南淳 (鶴岡高等) ら	PI-6 # スギ人工林下層に生育する樹木個体における重金類の配分: 入江菜紗 (鳥根大学) ら → 3月10日掲示に変更	PI-21 アルカリ抽出によるタケ植物体中含有ケイ素定量法の検討: 梅村光俊 (国立研究開発法人森林研究・整備機構) ら PJ-6 # 斜面上に生育するオオバサガラの水平根による土壌補強強度について: 佐久間菜奈 (東京農業大学) ら
PH-42 鈴鹿山脈中部~南部における2017年と2023年のスズカケノコ開花: 岡本透 (森林総合研究所)	PI-7 # 複数樹種のリター分解で得るDOCのフエリハイドライト様物質への吸着特性: 二村杏太郎 (名古屋大学) ら	PI-22 埋立造成後50年を経過した森林の土壌炭素蓄積量: 小野賢二 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所) ら PJ-7 # 様々な表層崩壊跡地における土層厚の回復: 松永美月 (宮崎大学) ら
PH-43 寒生由来のモウソウチクにおける一斉開花後衰退過程: 小林慧人 (森林総合研究所関西支所) ら	PI-8 # 混交林と単一樹種林ではリター分解で生成される有機物の特性は異なるのか?: 榎本香穂 (名古屋大学大学院) ら	PI-23 デジタルソイルマッピングによる全国の森林土壌窒素マップの作成: 山下尚之 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら PJ-8 # 森林被覆および降雨指標を用いた森林の変化が斜面崩壊に与える影響の評価: 佐藤忠志 (九州大学大学院) ら
PH-44 東近江市・河辺いきもの森におけるハチクシノキの開花・枯死状況: 籠谷泰行 (滋賀県立大学) ら	PI-9 # 森林源頭域における窒素無機化に及ぼす土壌環境の影響: 曹越 (東京農工大学) ら	PI-24 日本海側気候下の森林における降水にもなう重金類の負荷: 山下多聞 (鳥根大学) ら PJ-9 # 災害リスク軽減のための森林施業のあり方に関する研究: 球磨川流域を事例に: 中尾佐織 (九州大学) ら
PH-45 奥秩父山地におけるスズカケノコ一斉開花・更新プロセスのモデル化: 梅木清 (千葉大学) ら	PI-10 # 越境大気汚染によるイオウ酸化物の飛来が多い森林流域土壌のイオウ蓄積量: 塩出晏月 (名古屋大学) ら	PI-25 長期データと簡易モデルから推定されるスギ人工林の枯死木炭蓄積量: 酒井寿夫 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら PJ-10 # 北海道胆振東部地震による崩壊斜面でのリネットワークの形成と土砂動態: 八十川伊織 (東京農工大学大学院) ら
PH-46 阿武隈高地のモミ林のモニタリング試験地における20年間の林分構造の推移: 玉城聡 (森林総合研究所) ら	PI-11 # ササの消失及び代替下層植生の回復が土壌生態系機能に与える影響について: 古賀みこと (九州大学) ら	PI-26 DEMスケールの違いが地形パラメータと土壌型予測に及ぼす影響: 福田昌宏 ((国研) 森林研究・整備機構) ら PJ-11 # 日本のダム上流域を対象とした森林・地形状態と土砂・流木流出特性の関係: 中島啓太 (名古屋大学) ら
PH-47 白坂小流域固定試験地におけるアカマツの種子落下特性: 澤田晴雄 (東京大学)	PI-12 # 高山帯における木本根系の無機態および有機態窒素吸収と根特性の関係: 諏訪竜之介 (信州大学) ら	PI-27 スギ人工林における間伐が土壌窒素無機化を抑制する要因の検討: 藤巻玲路 (鳥根大学) ら PJ-12 # 山地上流域を対象とした流量の時空間変動特性とその支配的な地形条件: 鯉江知樹 (名古屋大学) ら
PH-48 ナラ枯れ跡地の更新状況: 三浦功次 (鳥取県林業試験場)	PI-13 # 湧水湿地における植生被覆と周... 発表取消	PI-28 斜面上の位置の違いが森林土壌の温室効果ガスフラックスに及ぼす影響: 飯田匡司 (森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら PJ-13 # 山地上流域における水貯留機能評価手法の構築と貯留量の流域間比較: 猪越翔大 (名古屋大学) ら
PH-49 奄美大島における常緑広葉樹二次林の森林構造および種組成の時間的変化: 齋川信 (鹿児島大学) ら	PI-14 酪農地帯における樹木への大気沈着量の変化: 加藤雅悠 (公立千歳科学技術大学) ら	PI-29 東京都内における目視観測に基づくスギ雄花量と林分環境: 阿部真 (国立研究開発法人森林研究・整備機構) ら PJ-14 # 急峻な斜面における水位井透水試験に使用する井戸の形成方法の検討: 柳井潤太郎 (京都大学大学院) ら
	PI-15 コーカリ3種の活着および初期成長に及ぼす土壌理化学的影響: 赤間有紀 (東京農工大学) ら	PI-30 地形特徴量による森林土壌中交換性塩基量推定モデルの機械学習を用いた検討: 今矢明宏 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所) ら PJ-15 # 複数の堆積岩流域における降雨流出特性の把握: 滝口慶人 (東京農業大学) ら
		PI-31 苗場山ブナ林の異なる標高における土壌呼吸特性: 榎本正明 (静岡大学) ら PJ-16 # 気候変動と森林回復が山地流域の流出に与える影響 - 93年間のデータ分析: 単依瑠 (東京大学) ら
		PI-32 Sources of carbon supporting the fast growth of developing <i>Phyllostachys edulis</i> culms: Wang Shitephen (京都大学) ら PJ-17 # 高山帯におけるハイマツ林土壌の水保持機能の解明: 石橋未来 (信州大学大学院) ら

研究発表題目 (ポスター発表)

防災・水文			利用	
PJ-18 # 下層植生が林床面蒸発散量に与える影響と推定モデルの開発: 橋本朝陽 (筑波大学) ら	PJ-34 釜淵森林理水試験地における小規模施事後の浮遊土砂流出: 阿部俊夫 (森林総合研究所) ら	PJ-52 病虫害後のコナラのイソプレン放出特性: 深山貞文 (森林総合研究所) ら	3/8 揭示分	PK-16 作業道盛土の転圧時に作用する土圧と透水性: 宗岡寛子 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
PJ-19 # 落葉広葉樹林斜面における林内雨の時空間分布: 三宅康太 (東京農業大学) ら	PJ-35 カラマツ人工林斜面における獣害による土砂流出量の変化: 廣瀬満 (山梨県森林総合研究所)	PJ-53 異なる気候帯に生育するブナの葉の特性とガス交換: 小坂泉 (日本大学) ら	PK-1 # 地形と事業量による伐採搬出作業システムの選択: 大橋岬平 (三重大学) ら	PK-17 バックホウのバケット部による路床締固め時の最適な締固め回数?: 和多田友宏 (岐阜県森林研究所) ら
PJ-20 # 高密度のマダケ林における樹冠遮断の特徴: 木村健人 (宮崎大学大学院) ら	PJ-36 北海道道東の森林において微動アレイ探査を用いた地下構造の推定: 福島慶太郎 (福島大学) ら	PJ-54 エルニーニョ現象による異常乾燥が乾燥常緑林の水利用に与える影響: 飯田真一 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	PK-2 # タワーヤーダを用いた下げ荷集材可能範囲及び搬出可能量の推定: 木野朗斗 (京都府立大学) ら	PK-18 横断排水溝に使用するノキ枝束束の見かけの復元に関する考察: 山口智 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
PJ-21 # 宮崎大学田野フィールドの常緑広葉樹林における蒸散量の計測: 阿部悠南 (宮崎大学) ら	PJ-37 東京農業大学奥多摩演習林狩倉沢流域における表面地形と基岩地形との比較: 佐藤貴紀 (東京農業大学) ら	PJ-55 ポルネオ島オイルパーム農園の水蒸気輸送に気象要素が与える影響: 羽田泰彬 (東京大学) ら	PK-3 # ウッドライナーを用いた下げ荷集材における集材可能範囲の抽出手法の開発: 木戸彩乃 (京都府立大学) ら	PK-19 獣害対策を考慮した微細選別を用いたのり面保護工: 矢部和弘 (東京農業大学) ら
PJ-22 # カラマツ人工林における林齢ごとの蒸発散特性の比較: 太田原久美 (東京農業大学) ら	PJ-38 山地斜面の土層・基岩層における間隙空気の挙動について: 若上翔 (森林総合研究所) ら	PJ-56 ヒノキ人工林における列状間伐後蒸散量の長期変動およびその要因: 邱瑋璋 (筑波大学) ら	PK-4 # 熟練度の違いによる伐倒作業時の注視点分析: 大島澤 (東京農業大学) ら	PK-20 光学衛星データを活用した長野県内における林道被災箇所抽出の試み: 秋田寛也 (国立研究開発法人防災科学技術研究所) ら
PJ-23 # 土壌水分収支法による幼齢カラマツ人工林の蒸散特性: 相澤杜真 (東京農業大学) ら	PJ-39 施業履歴の異なるヒノキ林の2流域における流出量の比較 (第2報): 久田善輔 (岐阜県森林研究所) ら	PJ-57 林齢がカラマツの単木蒸散量および林分蒸散量に及ぼす影響: 橋隆一 (東京農業大学) ら	PK-5 # 森林作業道における路面支持力及び林分蒸散量に及ぼす影響の事例一: 伊奈菜 (東京農業大学) ら	PK-21 敵対的生成ネットワークを用いた路網計画のための迂回率予測: 白澤結明 (森林総合研究所)
PJ-24 # 冷温帯落葉広葉樹における夜間蒸散特性の季節変化: 倉本輝 (静岡大学) ら	PJ-40 石川県の森林流域における夏季と積雪期の流出経路の比較: 久保田多余子 (森林総合研究所) ら	PJ-58 森林保険データの解析に基づく干害と立地の関係—北海道と山口県の比較—: 岩崎健太 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	PK-6 # 中山間地域の人口動態の変動が森林のアクセシビリティに及ぼす影響の推計: 渡部優 (岩手大学大学院) ら	PK-22 GNSS を利用した苗木の植付け位置への誘導精度: 佐々木達也 (森林総合研究所北海道支所) ら
PJ-25 # Seasonal Changes Radial Profile of Sap flow for Four Species with Difference Crown Structure: FaryzanQistan (The United Graduate School of Agricultural Science, Gifu University) ら	PJ-41 竜ノ口山南谷における地下水、湧水、溪流水の環境トレーサーによる比較: 細田育広 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所)	PJ-59 間伐による林内風荷重の変化: 宮下彩奈 (森林総研) ら	PK-7 # Detecting logging sites and their impact on downstream areas in Guadalcanal, Solomon Islands: ChachaTrevor (三重大学) ら	PK-23 ネットワーク型 RTK-GNSS 測位による造林地周囲測量の精度に及ぼす立地の影響: 鶴崎峰 (福岡県農業総合試験場) ら
PJ-26 # Comparison of hydrological response to commercial thinning and clear-cutting of dense Japanese cedar plantation: Mohd Ghausbiltsam Binti (東京大学) ら	PJ-42 ヒノキの枝打ち処理が樹冠の降雨再配分過程に与える影響: 田中延亮 (東京大学) ら		PK-8 素材生産における作業日報記録方法の検討: 海津江里 (三重県林業研究所) ら	PK-24 林業機械自律走行のための作業道逸脱防止システムに関する一検討: 有水賢吾 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
PJ-27 # 水の安定同位体比を利用した湿野地と斜面における樹木の水利利用特性の比較: 浅野理久郎 (京都府立大学) ら	PJ-43 森林理水試験地に対する TOPMODEL 型タンクモデルの適用: 観山寛樹 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら		PK-9 生産管理システムを用いたホイール式ハーベスタの生産性評価: 斎藤仁志 (岩手大学) ら	
PJ-28 # 桐生水文試験地ヒノキ林における森林動態および NEE の長期変動: 佐藤薫 (京都大学) ら	PJ-44 地震による森林植生の変化が地下水と河川の水質に及ぼす影響: 高橋大登 (公立千歳科学技術大学) ら		PK-10 受け口・追い口形状の実態調査: 猪俣雄太 (森林総合研究所) ら	
PJ-29 # A-Ci カーブに基づく光合成能力の推定はどれだけ簡略化出来るのか?: 中田拓朗 (東京大学) ら	PJ-45 北方冷温帯林において植生が出水時のリン流出に及ぼす影響について: 井手淳一郎 (公立千歳科学技術大学) ら		PK-11 下刈り作業の機械化に向けた研究: 大地純平 (山梨県森林総合研究所)	
	PJ-46 日本全国における森林深流水水質の空間分布: 牧野奏佳香 (総合地球環境学研究所) ら		PK-12 イノシシ・シカ等獣害防護柵侵入検知システムの実用化研究: 井内正直 (アイオーネイチャーラボ株式会社)	
3/10 揭示分	PJ-47 スギ人工林土壌中の放射性同位体濃度の鉛直分布: 今田省吾 (公益財団法人 環境科学技術研究所) ら			
PJ-30 都道府県が公開する WebGIS 上の防災マップの特徴と傾向: 園原和夏 (日本大学) ら	PJ-48 Heavy nitrogen deposition accelerates soil acidification in Chinese forests: 藤井一至 (森林総研) ら		3/10 揭示分	
PJ-31 ベトナムにおける治山施設の潜在的ニーズと普及に向けた課題: 岡本隆 (森林総合研究所) ら	PJ-49 Soil carbon dynamics in two Phyllostachys stands: abandoned bamboo stands still can be carbon sinks?: 久米朋宣 (九州大学大学院) ら		PK-13 作業現場におけるフォワーダ集材中の疲勞の経時変化: 中田知沙 (森林総合研究所) ら	
PJ-32 斜面安定に対するスギ倒根効果の検討方法: 岡田康彦 ((国研) 森林研究・整備機構) ら	PJ-50 可搬型フラックスタワーを用いた植栽初期スギ森林の CO2 フラックス: 小南裕志 (森林総合研究所) ら		PK-14 刈払機の駆動動力源の違いが、造林地における下刈りの作業負担に及ぼす影響: 玉田勝也 (山梨県森林総合研究所)	
PJ-33 樹木の配置と根系の形状が樹木個体の引き倒し抗力におよぼす影響: 大谷達也 (森林総合研究所四国支所)	PJ-51 スギ・ヒノキ林樹冠上の大気 O ₃ 濃度と H ₂ O・CO ₂ 交換量の関係について: 清水貴範 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構) ら		PK-15 ホイール型林業機械外装の色彩構成: 松村哲也 (信州豊南短大/東大院 農)	

研究発表題目 (ポスター発表)

動物・昆虫		微生物	
3/8 掲示分	PL-16 揮散性ピレスロイド系殺虫剤による樹幹内のカンナガキクイムシ駆除の試み：北島博 (森林総合研究所) ら	3/8 掲示分	3/10 掲示分
PM-33 Geographic distribution of needle litter microfungi in British Columbia: 大園享司 (同志社大学) ら	PL-1 # 高尾山域における高頻度なレクリエーション活動が野生動物に与える影響：安井理香 (東京大学大学院) ら	PM-1 # アカマツ実生の生育を阻害する <i>Trichoderma</i> 属菌の単離と病原性の評価：白川誠 (東京大学大学院) ら	PM-16 日本産マツ属樹木と共生する外生菌根菌胞子の耐熱性：阿部寛史 (東京大学) ら
PL-2 # 京都市宝が池公園に生息するニホンシカの日間活動：杉田泰淳 (京大大学院) ら	PL-17 カシノナガキクイムシ成虫の初発日確認に自動撮影装置は利用できないか：滝久智 (森林研究・整備機構) ら	PM-2 # 菌根のターンオーバーに伴う根圏バクテリアの群集変化とそれらの分解機能：若山彩貴 (東京農業大学) ら	PM-17 Identification of microRNAs involved in ectomycorrhizal formation in <i>Cenococcum geophilum</i> : 陶媛助 (The university of Tokyo) ら
PL-3 # 捕食者の非消費型効果シカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響：玉木麻香 (東京大学) ら	PL-18 岩手県におけるカンナガキクイムシの1年2化虫の発生事例：小岩俊行 (岩手県林業技術センター) ら	PM-3 # 日本の天然カラマツ林における外生菌根菌群集：張麗翼 (東京大学) ら	PM-18 Identification of lncRNAs involved in ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> : 楊紫薇 (東京大学) ら
PL-4 # 糞粒法に用いるノウサギの糞消滅に影響を与える要因の検討：中川惠翔 (宮崎大学大学院) ら	PL-19 カシノナガキクイムシ穿入丸太の分割と林内放置による羽化脱出への影響：衣浦晴生 (森林総合研究所) ら	PM-4 # ヤクズギ林冠と地上土壌における菌根菌群集の比較：末吉功幸 (神戸大学) ら	PM-19 Growth responses of larch seedlings to the inoculation of ectomycorrhizal genera <i>Suillus</i> and <i>Rhizopogon</i> : 宮本裕美子 (信州大学) ら
PL-5 # 都市の鳥類の種子散布ネットワークに影響を及ぼす要因：湯天馬 (東京大学大学院) ら	PL-20 カシノナガキクイムシ穿入木の玉切り長さの違いによる羽化脱出への影響：矢口甫 (森林総合研究所) ら	PM-5 # Exploring the functions of <i>GST2/GPS1104/PE15/PE17</i> genes in ectomycorrhizal formation of <i>Populus tomentosa</i> : 劉穎 (東京大学) ら	PM-20 地質ボーリングコアを用いた菌根埋土胞子の生存期間の探索：田中友啓 (東京大学) ら
PL-6 # ヒノキ人工林における階層構造と繁殖期および越冬期の鳥類種多様性の関係：西鈴音 (宮崎大学) ら	PL-21 カシノナガキクイムシ穿入木の埋設処理による羽化脱出への影響：松本剛史 ((国研) 森林総合研究所) ら	PM-6 # Analysis of related gene expression and genotype frequency underlying ectomycorrhizal formation in <i>Cenococcum geophilum</i> : 孔徳寧 (東京大学) ら	PM-21 森林土壌中の菌糸ターンオーバー：土壌断面撮影とAI画像分析で追いつけるか：SchaeferHolger (森林総合研究所) ら
PL-7 # 落葉樹天然林の針葉樹人工林化による有刺ハチ群集のデトリタス依存度の増加：上森敬慈 (九州大学) ら	PL-22 ミズナラ丸太による青森県産カンナガキクイムシの飼育試験：伊藤昌明 (地独) 青森県産産技術センター林業研究所) ら	PM-7 # Co-colonization in <i>Populus tomentosa</i> : a split root assay-based study of arbuscular and ectomycorrhizal interactions: KosolwattanaPhobthum (東京大学) ら	PM-22 3種のショウロ属菌における埋土胞子の生存期間の検証：村田政穂 (秋田県林業研究研修センター) ら
PL-8 # スギ・ヒノキ丸太へのエタノール注入によるキクイムシ穿孔様式の劇的な変化：中山直紀 (名古屋大学) ら	PL-23 東日本におけるカンナガキクイムシの集団遺伝構造：小林卓也 (森林総合研究所 北海道支所) ら	PM-8 # 異なる菌根形成段階におけるイテヤクワ根圏細菌の群集構造と系統的多様性：柴航太郎 (三重大学) ら	PM-23 サクラ属樹木4種に対する <i>Oyatospora japonica</i> の病原性：服部友香子 (森林総合研究所) ら
PL-9 # 飛翔時間がカンナガの姿勢に及ぼす影響～フライトミルを用いた観察～：小西文輝 (兵庫県立大学) ら	PL-24 フクギの枝と葉柄に穿孔するフクギキクイムシの繁殖生態：辻本信志 (一般財団法人沖縄美ら島財団) ら	PM-9 # 町屋海岸クロマツ林における <i>Cenococcum geophilum</i> 菌体バイオマスの定量：瀬川あすか (三重大学) ら	PM-24 カラマツ類交代検定で発生したならだけ病-被害の家系差に注目してー：和田尚之 (北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場) ら
PL-10 # 野外環境下でマツノザイセンチュウはその近縁種と雑種を形成するか?：池田俊月 (明治大学) ら	PL-25 モミの害虫モミハモグリゾウムシの生活史と植物病原菌の媒介について：綾部慈子 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	PM-10 # ミヤマハンノキの共生微生物群集構造：藤井恵理奈 (東京大学大学院) ら	PM-25 日本におけるマツ類赤枯病病原菌の分子同定：秋庭満輝 (森林総合研究所) ら
	PL-26 長野県におけるツヤハダゴダマラカミキリ成虫の発生：柳澤賢一 (長野県林業総合センター) ら	PM-11 # カラマツ林とスギ・ヒノキ混交林の境界における外生菌根菌の埋土胞子の分布：廣江裕輝 (東京農業大学) ら	PM-26 千葉県北部地域に造成した幼齢ユカリ人工林に発生した葉枯病性害：坂上大翼 (東京大学) ら
3/10 掲示分	PL-27 クビアカツヤカミキリ飼育個体に対する各種殺虫剤の効果試験 3年間の結果：法眼利幸 (和歌山県林業試験場) ら	PM-12 # 菌根形成したアカマツ実生の成長と培地における菌叢の特徴との関係：吉岡隼人 (東京農業大学) ら	PM-27 スギコンテナ苗の根腐れ部から分離された <i>Fusarium</i> 属菌：安藤裕尚 (森林総合研究所九州支所) ら
PL-11 河川敷がニホンシカの生活環に重要な役割を果たしている：林耕太 (山梨県森林総合研究所)	PL-28 トビムシ一雌体からの腸内微生物叢解析の試み：濱口京子 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 関西支所) ら	PM-13 # 乾燥条件下で砂漠植物の成長に関わる根圏内生微生物の推定：NGUYENTHI HUONG THI (鳥取大学) ら	PM-28 薬剤散布によるスギ赤枯病の防除効果：北野皓大 (群馬県林業試験場) ら
PL-12 白山亜高山・高山帯における自動撮影カメラによるニホンシカの侵入状況調査：近藤崇 (石川県白山自然保護センター) ら	PL-29 マツハリカメムシ (<i>Leptoglossus occidentalis</i>) の共生細菌獲得経路の探索：武原菜々花 (九州大学) ら	PM-14 # 種内系統と交配型の分布から探る暗色雪腐菌の繁殖様式：岩切鮎佳 (東京大学大学院) ら	PM-29 モミサルノコシカケを接種したトドマツの溝腐れと子実体発生に影響する要因：山口岳広 (森林総合研究所) ら
PL-13 宮崎大学田野演習林のスギ若齢林におけるシカ被害発生の経年変化：平田令子 (宮崎大学) ら	PL-30 カブトムシ幼虫による木材分解能力の解明：福田淳李 (東京農業大学) ら	PM-15 # ヒノキ生立木の剥皮木部でみられた菌類類群の経時的変化の特徴：戴健平 (東京大学大学院) ら	PM-30 カラマツ高齡林 I 林分における根株腐朽被害：鳥居正人 (森林総合研究所) ら
PL-14 岐阜県においてツリーシェルター2種類がスギ苗木の成長に与える影響の違い：片桐奈々 (岐阜県森林研究所)	PL-31 isofemale line を利用したマツノザイセンチュウ近交系の作出：樋口彩乃 (九州大学) ら		PM-31 ナラ枯れ被害発生初期地におけるナラ菌検出技術の確立：片屋真人 ((国研) 森林研究・整備機構・森林総合研究所) ら
PL-15 小面積皆伐更新が行われてきたコナラ二次林における3年間のナラ枯れの推移：松本薫 (埼玉森林インストラクター会)			PM-32 ナラタケモドキの発生する1公園でのカンナガキクイムシの時空間分布：高橋由紀子 (国立研究開発法人森林研究・整備機構) ら

研究発表題目（公募セッション ポスター発表）3月8日

T1 生物多様性保全と森林管理	T2 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究 —森林+αの可能性—	T3 森林の放射能研究	T5 樹木根の成長と機能
PT1-1 # 森林植生の空間的变化および長・短期的変化が鳥類群集に及ぼす影響：柴山潤太（名古屋大学）ら	PT2-1 # 樹木の葉の他感作用—揮発成分と溶脱成分の検定法による違い—：丸山真依（東京農業大学大学院）ら	PT3-1 福島県森林域の空間線量率および針葉樹 ¹³⁷ Cs 濃度変化の中長期的な推移：山村充（国土防災技術株式会社）ら	PT5-1 # ボルネオ熱帯低地林におけるNP 施肥に対する根滲出物速度の種特異的応答：平野侑（東京農業大学）ら
PT1-2 # スギ・ヒノキ小面積皆伐施業地における下層植生の17年間の変化：赤池友樹（宮崎大学）ら	PT2-2 # 東京都立公園における季節変化と散策前後の気分変化：斎藤乃桜（東京農業大学）ら	PT3-2 植栽木の樹種による放射性セシウム面移行係数の違い：齋藤直彦（福島県林業研究センター）ら	PT5-2 日本の森林生態系における土壌深度別の細根形質と土壌栄養塩可給性との関係：向井真那（山梨大学）ら
PT1-3 マレーシア・サラワク州における生物保護区の管理と法的枠組み：山下聡（森林総合研究所）ら		PT3-3 事故後5年目の落葉除去がスギ材の放射性セシウム濃度に及ぼす影響：大前芳美（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	PT5-3 # 中間温帯針広混交林における樹木の吸水深度の季節変動：勝浦柊（名古屋大学）ら
PT1-4 宮城県名取市の里山に生息する野ネズミ類：鳥羽妙（尚絅学院大学）		PT3-4 林床管理の違いが分解にともなう落葉中の放射性セシウム濃度に及ぼす影響：市川貴大（くまの木里山応援団）ら	PT5-4 # 中央アルプスの亜高山帯林における標高勾配に沿った土壌呼吸および根呼吸：坂本小雪（信州大学）ら
PT1-5 岩手県におけるアカマツに関わる地域文化と生物多様性：深町加津枝（京都大学）ら		PT3-5 カリウム施肥による森林土壌における土壌交換性カリウム濃度分布の変化：長奉秀和（福島県林業研究センター）ら	PT5-5 スギ林における根の土壌補強強度を推定する：藤堂千景（兵庫県立農林水産技術総合センター）ら
		PT3-6 施肥・施業の違いがワラビの ¹³⁷ Cs 吸収に与える影響Ⅱ：井上美那（国土防災技術株式会社）ら	PT5-6 # クロマツ2段水平根の年輪解析に基づく発達順序の解明：上田悠馬（名古屋大学）ら
		PT3-7 シイタケ原木の ¹³⁷ Cs 分布と子実体 ¹³⁷ Cs 移行係数の関係：小林勇介（福島県林業研究センター）ら	PT5-7 異なる湛水水位がクロマツ苗根系の引き抜き抵抗力に及ぼす影響：藤田早紀（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
		PT3-8 ハンドヘルド蛍光 X 線分析計によるコナラ木材標本の無機成分測定を試み：眞中卓也（森林総合研究所）ら	PT5-8 # 土壌表層から根系最大深さに至るまでのスギ細根形態特性：柳瀬亮太（名古屋大学）ら
		PT3-9 コナラ萌芽更新木における各部位 ¹³⁷ Cs 濃度の季節変化：小川秀樹（福島県林業研究センター）ら	PT5-9 斜面の異なる位置に生育するヒノキの根呼吸および細根動態：小林元（信州大学）ら
		PT3-10 # コナラ樹体および落葉の放射性セシウム分布と空間変動：瀧上百々（宇都宮大学大学院）ら	PT5-10 # ヒノキ林表層土壌における脱落根採取法の提案：黒見信輔（名古屋大学大学院）ら
		PT3-11 # 森林源流部からの溶存態 Cs-137 流出メカニズム：永田祐太郎（筑波大学）ら	PT5-11 ササ除去が森林土壌の窒素動態に及ぼす影響：複数サイトにおける観測から：福澤加里部（北海道大学）ら
		PT3-12 # 福島県におけるスギ林土壌中の Cs-137 の空間分布に対する選択流の影響：三嶋駿介（筑波大学）ら	PT5-12 # 細根解剖特性の季節変動：原生木部数の割合は季節によって変わるのか？：細井彩（信州大学大学院）ら
		PT3-13 水生昆虫の枯死葉摂食による溪流の微細有機物生産と放射性セシウムの関係：金指努（福島大学）ら	PT5-13 モウソウチク林の根系動態にスキヤナー法での撮影地点数が与える影響評価：遠藤いず貴（兵庫県立大学）ら
		PT3-14 福島の落葉樹林斜面における土壌 ¹³⁷ Cs 蓄積量の時空間変動：小田智基（森林総合研究所）ら	PT5-14 # スギ林土壌の巨根の有無に着目した二周波地中レーダによる推定根系の比較：金子祥也（名古屋大学大学院）ら
		PT3-15 2022-2023年の葉・外樹皮が樹幹流放射性セシウム濃度に与える影響：坂下渉（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	
		PT3-16 森林源流域および下流域において水質が溶存態放射性 Cs の動態に与える影響：戸村光祐（筑波大学大学院）ら	
		PT3-17 福島県におけるスギ細根中 Cs-137 の経年変化と下方移行に対する転流の影響：高橋純子（筑波大学）ら	

ポスター発表一覧 1/4

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター 番号	掲示日	会場	部門
PA-1 #	3/8	541	林政
PA-2 #	3/8		
PA-3 #	3/8		
PA-4 #	3/8		
PA-5 #	3/8		
PA-6 #	3/8		
PA-7 #	3/8		
PA-8	3/10		
PA-9 #	3/8		
PA-10 #	3/8		
PA-11 #	3/8		
PA-12 #	3/8		
PA-13	3/10		
PA-14	3/10		
PA-15	3/10		
PA-16	3/10		
PA-17	3/10		
PA-18	3/10		
PA-19	3/10		
PA-20	3/10		
PA-21	3/10		
PA-22	3/10		
PA-23	3/10		
PA-24	3/10		
PB-1 #	3/8	541	風致・観光
PB-2 #	3/8		
PB-3 #	3/8		
PB-4 #	3/8		
PB-5	3/10		
PB-6	3/10		
PB-7	3/10		
PB-8	3/10		
PB-9	3/10		
PB-10	3/10		
PB-11	3/10		
PB-12	3/10		
PC-1 #	3/8	541	教育
PC-2 #	3/8		
PC-3 #	3/8		
PC-4 #	3/8		
PC-5 #	3/8		
PC-6 #	3/8		
PC-7 #	3/8		
PC-8 #	3/8		
PC-9	3/8		
PC-10	3/8		
PC-11	3/8		
PD-1 #	3/8	531	経営
PD-2 #	3/8		
PD-3 #	3/8		
PD-4 #	3/8		
PD-5 #	3/8		
PD-6 #	3/8		
PD-7 #	3/8		
PD-8 #	3/8		
PD-9 #	3/8		

ポスター 番号	掲示日	会場	部門
PD-10 #	3/8	531	経営
PD-11 #	3/8		
PD-12 #	3/8		
PD-13 #	3/8		
PD-14 #	3/8		
PD-15 #	3/8		
PD-16 #	3/8		
PD-17 #	3/8		
PD-18 #	3/8		
PD-19 #	3/8		
PD-20 #	3/8		
PD-21 #	3/8		
PD-22 #	3/8		
PD-23 #	3/8		
PD-24 #	3/8		
PD-25 #	3/8		
PD-26 #	3/8		
PD-27 #	3/8		
PD-28 #	3/8		
PD-29 #	3/8		
PD-30 #	3/8		
PD-31 #	3/8		
PD-32 #	3/8		
PD-33 #	3/8		
PD-34 #	3/8		
PD-35 #	3/8		
PD-36 #	3/8		
PD-37	3/10		
PD-38	3/10		
PD-39	3/10		
PD-40	3/10		
PD-41	3/10		
PD-42	3/10		
PD-44	3/10		
PD-45	3/10		
PD-46	3/10		
PD-47	3/10		
PD-48	3/10		
PD-49	3/10		
PD-50	3/10		
PD-51	3/10		
PD-52	3/10		
PD-53	3/10		
PD-54	3/10		
PD-55	3/10		
PD-56	3/10		
PD-57	3/10		
PD-58	3/10		
PD-59	3/10		
PD-60	3/10		
PD-61	3/10		
PD-62	3/10		
PD-63	3/10		
PD-64	3/10		
PD-65	3/10		
PD-66	3/10		

ポスター 番号	掲示日	会場	部門
PD-67	3/10	531	経営
PD-68	3/10		
PD-69	3/10		
PE-1 #	3/8	531	造林
PE-2 #	3/8		
PE-3 #	3/8		
PE-4 #	3/8		
PE-5 #	3/8		
PE-6 #	3/8		
PE-7 #	3/8		
PE-8 #	3/8		
PE-9 #	3/8		
PE-10 #	3/8		
PE-11 #	3/8		
PE-12 #	3/8		
PE-13 #	3/8		
PE-14 #	3/8		
PE-15	3/10		
PE-16	3/10		
PE-17	3/10		
PE-18	3/10		
PE-19	3/10		
PE-20	3/10		
PE-21	3/10		
PE-22	3/10		
PE-23	3/10		
PE-24	3/10		
PE-25	3/10		
PE-26	3/10		
PE-27	3/10		
PE-28	3/10		
PE-29	3/10		
PE-30	3/10		
PE-31	3/10		
PE-32	3/10		
PE-33	3/10		
PE-34	3/10		
PE-35	3/10		
PE-36	3/10		
PE-37	3/10		
PE-38	3/10		
PE-39	3/10		
PE-40	3/10		
PE-41	3/10		
PE-42	3/10		
PE-43	3/10		
PE-44	3/10		
PE-45	3/10		
PE-46	3/10		
PE-47	3/10		
PE-48	3/10		
PE-49	3/10		
PE-50	3/10		
PE-51	3/10		
PE-52	3/10		
PE-53	3/10		

ポスター発表一覧 2/4

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター 番号	掲示日	会場	部門	ポスター 番号	掲示日	会場	部門	ポスター 番号	掲示日	会場	部門
PE-54	3/10	531	造林	PG-13 #	3/8	532	生理	PH-32	3/10	532	植物生態
PE-55	3/10			PG-14 #	3/8			PH-33	3/10		
PE-56	3/10			PG-15 #	3/8			PH-34	3/10		
PF-1	3/8	PG-16 #	3/8	PH-35	3/10						
PF-2 #	3/8	PG-17 #	3/8	PH-36	3/10						
PF-3	3/8	PG-18 #	3/8	PH-37	3/10						
PF-4 #	3/8	PG-19 #	3/8	PH-38	3/10						
PF-5	3/8	PG-20	3/10	PH-39	3/10						
PF-6 #	3/8	PG-21	3/10	PH-40	3/10						
PF-7	3/8	PG-22	3/10	PH-41	3/10						
PF-8 #	3/8	PG-23	3/10	PH-42	3/10						
PF-9 #	3/8	PG-24	3/10	PH-43	3/10						
PF-10 #	3/8	PG-25	3/10	PH-44	3/10						
PF-11	3/8	PG-26	3/10	PH-45	3/10						
PF-12 #	3/8	PG-27	3/10	PH-46	3/10						
PF-13 #	3/8	PG-28	3/10	PH-47	3/10						
PF-14	3/8	PG-29	3/10	PH-48	3/10						
PF-15 #	3/8	PG-30	3/10	PH-49	3/10						
PF-16	3/8	PG-31	3/10	PI-1 #	3/8	532	立地				
PF-17 #	3/8	PG-32	3/10	PI-2 #	3/8						
PF-18	3/8	PG-33	3/10	PI-3 #	3/8						
PF-19 #	3/8	PG-34	3/10	PI-4 #	3/8						
PF-20	3/10	PG-35	3/10	PI-5 #	3/8						
PF-21	3/10	PG-36	3/10	PI-6	3/10						
PF-22	3/10	PG-37	3/10	PI-7 #	3/8						
PF-23	3/10	PH-1 #	3/8	PI-8 #	3/8	532	立地				
PF-24	3/10	PH-2 #	3/8	PI-9 #	3/8						
PF-25	3/10	PH-3 #	3/8	PI-10 #	3/8						
PF-27	3/10	PH-4 #	3/8	PI-11 #	3/8						
PF-28	3/10	PH-5 #	3/8	PI-12 #	3/8						
PF-29	3/10	PH-6 #	3/8	PI-13 #	3/8						
PF-30	3/10	PH-7 #	3/8	PI-14	3/8						
PF-31	3/10	PH-8 #	3/8	PI-15	3/8						
PF-32	3/10	PH-9 #	3/8	PI-16	3/10						
PF-33	3/10	PH-10 #	3/8	PI-17	3/10						
PF-34	3/10	PH-11 #	3/8	PI-18	3/10						
PF-35	3/10	PH-12 #	3/8	PI-19	3/10						
PF-36	3/10	PH-13 #	3/8	PI-20	3/10						
PF-37	3/10	PH-14 #	3/8	PI-21	3/10						
PF-38	3/10	PH-15 #	3/8	PI-22	3/10						
PF-39	3/10	PH-16 #	3/8	PI-23	3/10						
PF-40	3/10	PH-17 #	3/8	PI-24	3/10						
PF-41	3/10	PH-18 #	3/8	PI-25	3/10						
PF-42	3/10	PH-19 #	3/8	PI-26	3/10						
PG-1 #	3/8	PH-20 #	3/8	PI-27	3/10						
PG-2 #	3/8	PH-21 #	3/8	PI-28	3/10						
PG-3 #	3/8	PH-22 #	3/8	PI-29	3/10						
PG-4 #	3/8	PH-23 #	3/8	PI-30	3/10						
PG-5 #	3/8	PH-24 #	3/8	PI-31	3/10						
PG-6 #	3/8	PH-26 #	3/8	PI-32	3/10						
PG-7 #	3/8	PH-27 #	3/8	PI-33	3/10						
PG-8 #	3/8	PH-28 #	3/8	PI-34	3/10						
PG-9 #	3/8	PH-29 #	3/8	PJ-1	3/8	532	防災・水文				
PG-10 #	3/8	PH-30 #	3/8	PJ-2	3/8						
PG-11 #	3/8	PH-31 #	3/8	PJ-3	3/8						
PG-12 #	3/8										

ポスター発表一覧 3/4

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター番号	掲示日	会場	部門
PJ-4 #	3/8	532	
PJ-5 #	3/8		
PJ-6 #	3/8		
PJ-7 #	3/8		
PJ-8 #	3/8		
PJ-9 #	3/8		
PJ-10 #	3/8		
PJ-11 #	3/8		
PJ-12 #	3/8		
PJ-13 #	3/8		
PJ-14 #	3/8		
PJ-15 #	3/8		
PJ-16 #	3/8		
PJ-17 #	3/8		
PJ-18 #	3/8		
PJ-19 #	3/8		
PJ-20 #	3/8		
PJ-21 #	3/8		
PJ-22 #	3/8		
PJ-23 #	3/8		
PJ-24 #	3/8		
PJ-25 #	3/8		
PJ-26 #	3/8		
PJ-27 #	3/8		
PJ-28 #	3/8		
PJ-29 #	3/8		
PJ-30	3/10		
PJ-31	3/10		
PJ-32	3/10		
PJ-33	3/10		
PJ-34	3/10		
PJ-35	3/10		
PJ-36	3/10		
PJ-37	3/10		
PJ-38	3/10		
PJ-39	3/10		
PJ-40	3/10		
PJ-41	3/10		
PJ-42	3/10		
PJ-43	3/10		
PJ-44	3/10		
PJ-45	3/10		
PJ-46	3/10		
PJ-47	3/10		
PJ-48	3/10		
PJ-49	3/10		
PJ-50	3/10		
PJ-51	3/10		
PJ-52	3/10		
PJ-53	3/10		
PJ-54	3/10		
PJ-55	3/10		
PJ-56	3/10		
PJ-57	3/10		
PJ-58	3/10		
PJ-59	3/10		

ポスター番号	掲示日	会場	部門
PK-1 #	3/8	543	利用
PK-2 #	3/8		
PK-3 #	3/8		
PK-4 #	3/8		
PK-5 #	3/8		
PK-6 #	3/8		
PK-7 #	3/8		
PK-8	3/8		
PK-9	3/8		
PK-10	3/8		
PK-11	3/8		
PK-12	3/8		
PK-13	3/10		
PK-14	3/10		
PK-15	3/10		
PK-16	3/10		
PK-17	3/10		
PK-18	3/10		
PK-19	3/10		
PK-20	3/10		
PK-21	3/10		
PK-22	3/10		
PK-23	3/10		
PK-24	3/10		
PL-1 #	3/8	543	動物・昆虫
PL-2 #	3/8		
PL-3 #	3/8		
PL-4 #	3/8		
PL-5 #	3/8		
PL-6 #	3/8		
PL-7 #	3/8		
PL-8 #	3/8		
PL-9 #	3/8		
PL-10 #	3/8		
PL-11	3/10		
PL-12	3/10		
PL-13	3/10		
PL-14	3/10		
PL-15	3/10		
PL-16	3/10		
PL-17	3/10		
PL-18	3/10		
PL-19	3/10		
PL-20	3/10		
PL-21	3/10		
PL-22	3/10		
PL-23	3/10		
PL-24	3/10		
PL-25	3/10		
PL-26	3/10		
PL-27	3/10		
PL-28	3/10		
PL-29	3/10		
PL-30	3/10		
PL-31	3/10		

ポスター番号	掲示日	会場	部門
PM-1 #	3/8	543	微生物
PM-2 #	3/8		
PM-3 #	3/8		
PM-4 #	3/8		
PM-5 #	3/8		
PM-6 #	3/8		
PM-7 #	3/8		
PM-8 #	3/8		
PM-9 #	3/8		
PM-10 #	3/8		
PM-11 #	3/8		
PM-12 #	3/8		
PM-13 #	3/8		
PM-14 #	3/8		
PM-15 #	3/8		
PM-16	3/10		
PM-17	3/10		
PM-18	3/10		
PM-19	3/10		
PM-20	3/10		
PM-21	3/10		
PM-22	3/10		
PM-23	3/10		
PM-24	3/10		
PM-25	3/10		
PM-26	3/10		
PM-27	3/10		
PM-28	3/10		
PM-29	3/10		
PM-30	3/10		
PM-31	3/10		
PM-32	3/10		
PM-33	3/10		
PN-1	3/8	543	特用林産
PN-2	3/8		
PN-3 #	3/8		
PN-4	3/8		
PN-5	3/8		

ポスター発表一覧 4/4

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター番号	掲示日	会場	部門
PT1-1 #	3/8	543	T1
PT1-2 #	3/8		
PT1-3	3/8		
PT1-4	3/8		
PT1-5	3/8		
PT2-1 #	3/8	543	T2
PT2-2 #	3/8		
PT3-1	3/8	543	T3
PT3-2	3/8		
PT3-3	3/8		
PT3-4	3/8		
PT3-5	3/8		
PT3-6	3/8		
PT3-7	3/8		
PT3-8	3/8		
PT3-9	3/8		
PT3-10 #	3/8		
PT3-11 #	3/8		
PT3-12 #	3/8		
PT3-13	3/8		
PT3-14	3/8		
PT3-15	3/8		
PT3-16	3/8		
PT3-17	3/8		
PT5-1 #	3/8	542	T5
PT5-2	3/8		
PT5-3 #	3/8		
PT5-4 #	3/8		
PT5-5	3/8		
PT5-6 #	3/8		
PT5-7	3/8		
PT5-8 #	3/8		
PT5-9	3/8		
PT5-10 #	3/8		
PT5-11	3/8		
PT5-12 #	3/8		
PT5-13	3/8		
PT5-14 #	3/8		

ポスター番号	会場	部門
PP-01	542	JFR論文賞
PP-02		日林誌論文賞

GP-01	542	【学会企画4】 帰国留学生会員 アジアの林学会 (タイトル一覧 はP.67)
GP-02		
GP-03		
GP-04		
GP-05		
GP-06		
GP-07		
GP-08		
GP-09		
GP-10		

KP-01	542	【学会企画5】 高校生 ポスター (タイトル一覧 はP.64)
KP-02		
KP-03		
KP-04		
KP-05		
KP-06		
KP-07		
KP-08		
KP-09		
KP-10		
KP-11		
KP-12		
KP-13		
KP-14		
KP-15		
KP-16		
KP-17		
KP-18		
KP-19		
KP-20		
KP-21		
KP-22		
KP-23		
KP-24		
KP-25		
KP-26		
KP-27		
KP-28		
KP-29		

T1 生物多様性保全と森林管理

T2 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究 - 森林 + αの可能性 -

T3 森林の放射能研究

T5 樹木根の成長と機能

論文賞受賞, 学会企画4, 高校生の
ポスターは大会期間中掲示

口頭発表座長一覧

部門	発表番号	座長氏名 (所属)
林政1	A1~A6	1件前の発表者
林政2	A7~A18	1件前の発表者
林政3	A19~A24	1件前の発表者
林政4	A25~A30	1件前の発表者
風致・観光1	B1~B3	山本清龍 (東京大学)
風致・観光2	B4~B6	平野悠一郎 (森林総合研究所)
	B7~B12	庄子康 (北海道大学)
風致・観光3	B13~B15	奥敬一 (富山大学)
	B16~B18	愛甲哲也 (北海道大学)
教育1	C1~C3	東原貴志 (上越教育大学)
教育2	C4~C6	杉浦克明 (日本大学)
	C7~C9	寺下太郎 (愛媛大学)
教育3	C10~C12	山田亮 (北海道教育大学)
	C13~C15	井上真理子 (森林総研多摩)
経営1	D1~D4	井上昭夫 (近畿大学)
	D5~D8	光田靖 (宮崎大学)
経営2	D9~D12	高橋正義 (森林総合研究所)
	D13~D16	平岡裕一郎 (静岡県立農林環境専門職大学)
	D17~D20	米康充 (島根大学)
経営3	D21~D23	小谷英司 (森林総合研究所)
	D24~D26	志水克人 (森林総研)
	D27~D29	山本一清 (名古屋大学)
経営4	D30~D32	太田徹志 (九州大学)
	D33~D35	村上拓彦 (新潟大学)
造林1	E1~E3	鶴川信 (鹿児島大学)
	E4~E6	星野大介 (森林総合研究所)
	E7~E9	高橋一秋 (長野大学)
造林2	E10~E12	太田敬之 (森林総合研究所)
	E13~E14	渡邊仁志 (岐阜県森林研究所)
遺伝・育種	F1~F3	宮下久哉 (森林総研林木育種センター)
	F4~F6	花岡創 (静岡大学)
生理	G1~G3	東若菜 (神戸大学)
	G4~G5	細尾佳宏 (信州大学)
植物生態1	H1~H3	梅木清 (千葉大学)
	H4~H6	野口麻穂子 (森林総合研究所東北支所)
植物生態2	H7~H9	田邊智子 (京都大学)
	H4~H6	菅井徹人 (森林総合研究所北海道支所)
立地	I1~I3	智和正明 (九州大)
	I4~I7	高木正博 (宮崎大学)

部門	発表番号	座長氏名 (所属)
防災・水文1	J1~J4	酒井佑一 (宇都宮大学)
防災・水文2	J5~J7	勝山正則 (京都府立大学)
	J8~J10	岩崎健太 (森林総合研究所)
	J11~J13	上村佳奈 (信州大学)
防災・水文3	J14~J16	岩上翔 (森林総合研究所)
	J17~J19	浅野友子 (東京大学)
利用1	K1~K8	1件前の発表者
利用2	K9~K13	1件前の発表者
動物・昆虫1	L1~L4	近藤崇 (石川県白山自然保護センター)
	L5~L8	中村克典 (森林総合研究所)
動物・昆虫2	L9~L12	津田格 (岐阜県立森林文化アカデミー)
	L13~L15	梶村恒 (名古屋大学)
微生物	M1~M3	升屋勇人 (森林総合研究所)
	M4~M7	奈良一秀 (東京大学)
特用林産	N1~N3	小松雅史 (森林総合研究所)

公募セッション	発表番号	座長氏名 (所属)
T1 多様性保全	T1-1~9	山中聡 (森林総合研究所)
T2 保健休養機能	T2-1~4	1件前の発表者
T3 森林放射能	T3-1~3	小松雅史 (森林総合研究所)
	T3-4~5	大久保達弘 (宇都宮大学)
T4 デジタルツイン	T4-1~4	陣川雅樹・橋本昌司 (森林総合研究所)
T5 樹木根	T5-1~2	野口享太郎 (森林総合研究所東北支所)
	T5-1~5	檀浦正子 (京都大学)
	T5-6~8	福澤加里部 (北海道大学)

2024年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

山浦 悠一（森林総合研究所）

自然保護区からモザイク管理へ：保持林業と景観配置

松井 哲哉（森林総合研究所）

気候変動に伴う日本の森林の分布予測と保全指針

2. 日本森林学会奨励賞

山岸 極（森林総合研究所）

Effects of weeding the shrub layer during thinning on surface soil erosion in a hinoki plantation

久保 雄広（国立環境研究所）

Conservation fundraising: Evidence from social media and traditional mail field experiments

3. 日本森林学会学生奨励賞

猪越 翔大（投稿時：名古屋大学 応募時：名古屋大学）

A watershed scale evapotranspiration model considering forest type, stand parameters, and climate factors

栃木 香帆子（投稿時：東京農工大学 応募時：東京農工大学）

Differentiation and seasonality in suitable microsites of seed dispersal by an assemblage of omnivorous mammals

Akotchiffor Kévin Geoffroy Djotan（投稿時：東京大学 応募時：東京大学）

Paired root soil samples and metabarcoding reveal taxon based colonization strategies in arbuscular mycorrhizal fungi communities in Japanese cedar and cypress stands

4. Journal of Forest Research 論文賞

Shinsuke Koike, Kahoko Tochigi and Koji Yamazaki（筆頭著者の所属：東京農工大学）

論文題目：Are seeds of trees with higher fruit production dispersed farther by frugivorous mammals?

掲載巻号・頁・発行年：Vol.28, No.1, 64 – 72, 2022

5. 日本森林学会誌論文賞

志水 克人（森林総合研究所）

論文題目：衛星データを用いた森林変化マップにおける面積推定と精度評価の手法

掲載巻号・頁・発行年：105 巻 5 号, 166 - 182, 2023 年

3月9日（土）9時30分から行われる開会式にて、授賞式ならびに学会賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。また、大会開催期間中、Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターを会場にて展示します。

自然保護区からモザイク管理へ ——保持林業と景観配置——

山浦悠一（森林総研）

はじめに

地球は新たな地質時代に突入し、人類の持続的な発展が求められる中、林業分野において生物多様性の保全は重要な社会的課題となっている。近年、保全科学では自然保護区の役割の限界が認識されるようになり、分野の焦点は保護区外を含めた景観全体での保全活動へ移りつつある。こうした状況で私は最近2本の論文を出版した (Yamaura et al. 2022, 2023)。これらの論文は、生物多様性の保全に配慮した森林管理の林分レベルでの施業方法や景観レベルにおける配置に示唆を与えるものである。

針葉樹人工林の主伐時に広葉樹を伐らずに残す保持林業

1980年、アメリカ合衆国西部のセント・ヘレンズ山が大噴火した。そして壊滅的な攪乱を生き抜いた生物や残された生物由来の堆積物——生物遺産 (biological legacy) と呼ばれる——が生態系の回復に大きな役割を果たしていることが明らかになった (Franklin 1990, 中村 2018)。伐採後に整地をして遷移が始まる皆伐地に樹木を生物遺産として残す。これにより幼齢林に構造・組成的多様性を付与するのが保持林業 (retention forestry) で、伐採後の生物多様性の維持や生態系の回復を促進することが期待される。択伐とは異なり、保持林業で残す樹木は生物多様性の保全や生態系の回復の観点から選択され、世界各地でその普及が進んでいる (柿澤ほか 2018)。

人工林率の高い日本では、人工林と人工林林業は生物多様性保全上重要であり、人工林の主伐は人工林の構造と組成を大きく変える決定的なイベントである。私たちは12年程前、今後日本は主伐の時代を迎え、保持林業が人工林で生物多様性を保全するための有用な手法になるのではないかと考えた。そして道央の道有林で大規模な実験を開始した (柿澤ほか 2018)。対象は北海道の人工林を代表するトドマツ人工林であり、樹木の組成が単純化されていることから、残す樹木は組成を特に重視して混生する広葉樹とした。

実験は皆伐、haあたり10本、50本、100本の広葉樹を残す単木保持区、伐採を行わない人工林や天然林から構成され、各処理区はおよそ5ha以上、そして各処理区はほぼ3つの繰り返しを有している。私たち鳥類班は伐採前と伐採後3年間にわたって全実験区全域をカバーする野外調査を7年間かけて実施した (Yamaura et al. 2023)。その結果、人工林を伐採する前も後も、広葉樹が増加すると鳥類の個体数は上に凸の形で増加した。針葉樹人工林で少量の広葉樹を保持することの費用対効果の高さが示されたといえる。haあたり20~30本の広葉樹を保持すれば、皆伐よりも多くの鳥類を保全できると期待された。今後施業ガイドラインや森林認証制度に広葉樹の保持が組み込まれれば、林業分野で生物多様性の保全が進み、森林や林業、木材の価値が向上すると期待される。

保持林業は景観のどこに配置すべきか？

人工林が広がる景観では、保持林業をすべての人工林で実施することは難しいかもしれない。果たしてどの人工林で保持林業を実施すべきか？かつてFranklin (1993) は、保護区を取り巻く土地利用を「マトリックス」と呼び、マトリックスを管理することによって景観の連結性を高める意義を説いた。そこで私たちはサーキット (電子回路) 理論に根差した空間明示型の個体群モデルを構築し、おおむねこの主張を支持する結果を得た (Yamaura et al. 2022)。つまり、保持林業を保護区の周囲や保護区間を連結するように実施することの便益が示された。

引用文献

Franklin JF (1990) Biological legacies: a critical management concept from mount St. Helens. *Trans 55th N A Wildl & Nat Res Conf* 216-219

Franklin JF (1993) Preserving biodiversity: species, ecosystems, or landscapes? *Ecol Appl* 3:202-205

柿澤宏昭・山浦悠一・栗山浩一 (2018) 保持林業—木を伐りながら生き物を守る—。築地書館

中村太士 (2018) アメリカ合衆国における保持林業の勃興。 (柿澤宏昭ほか 編。保持林業。築地書館) . 59-94

Yamaura Y, Fletcher RJ, Lade SJ, Higa M, Lindenmayer D (2022) From nature reserve to mosaic management: improving matrix survival, not permeability, benefits regional populations under habitat loss and fragmentation. *J Appl Ecol* 59:1472-1483

Yamaura Y, Unno A, Royle JA (2023) Sharing land via keystone structure: retaining naturally regenerated trees may efficiently benefit birds in plantations. *Ecol Appl* 33:e2802

気候変動に伴う日本の森林の分布予測と保全指針

松井哲哉（森林総研）

【分布予測研究の始まり】 気候変動が森林生態系に与える影響を評価する研究プロジェクトに、2001年から参加した。私はブナ林に対する温暖化影響の地図化を担当することになり、欧米の先行研究事例のモデル手法をブナ林研究に適用することにした。それは、樹木の広域分布情報を従属変数とし、気温や降水量といった気候条件を説明変数としてモデル化し、推定した樹木の分布確率を地図化するという、現在では当たり前になった手法であった。それを用いて、当時の最新のデジタル植生情報と3次メッシュ（約1 km²）気候データを使った解析を試みたが、表計算ソフトは2万6千行までしか入力できず、37万件ある気候情報は格納できなかった。試行錯誤の末に S-PLUS 言語を用いて全国のブナ林の分布予測モデルを構築し、ブナ林の分布規定要因の解明と、分布可能な地域（潜在生育域）が将来の温暖化によってどう変化するかを推定し地図化した（Matsui *et al.* 2004a, b, c; 2009）。

同時に、このまま温暖化が進行すると、世界自然遺産である白神山地のブナ林はどうなってしまうのかという疑問も生じた。そこで、現地の植生を海岸から山頂まで踏査して主要樹種の分布標高を記録し、これに既存文献の情報をあわせて垂直分布情報に整理した上で潜在生育域の将来の縮小傾向を加味すると、2100年頃の白神山地では大半がブナ林の潜在生育域から外れ、コナラやクリなどの中間温帯性樹種に適した気候帯になる可能性が示された（松井ら 2007）。

一方で、全国のブナ個体の分布と温暖化影響を評価し、それを自然保護区の情報と重ねて関係を解析した研究も進み、温暖化後にも安定したブナの生育域を含む自然保護区と脆弱な保護区、保護区外だが将来は保全すべき候補地域などの区分が公表された（Nakao *et al.* 2013）。

【対象や地域の拡大】 ブナ以外では、共同研究者らとともに日本の植生（ハイマツ、シラビソ、コメツガ、アカガシ、ササ、竹林等）に関する温暖化影響評価（Horikawa *et al.* 2009; Nakao *et al.* 2011; Tanaka *et al.* 2012; Higa *et al.* 2013; Tsuyama *et al.* 2012; 2015; 平田ら 2020）、シカ生息域やマツ枯れリスク域の温暖化影響評価（Ohashi *et al.* 2016; Matsuhashi *et al.* 2020）、気候変動の速度（高野ら 2019）、過去から現在に至る植生変遷の推定（Tsuyama *et al.* 2014; Shitara *et al.* 2021）、遺伝研究者らとの共同研究（Worth *et al.* 2023）などが進められた。

将来の温暖化により潜在生育域から外れたブナ林が、将来はどのような樹種に置き換わるのかという定量的な推定はこれまでなされていなかった。そこで、ブナ林と接する植生から主要な樹種を選んで1つの分布予測モデルの中に同時に組み込むモデルを構築し、現在はブナが優占している地点の将来変化推定を試みたところ、ブナの分布下限域を中心に、温暖化が進行するとブナ優占型からナラやカシ類優占型の森林へと変化する可能性が示された（Matsui *et al.* 2018）。たとえば、茨城県の筑波山（877m）南斜面では、標高 550m を境として上側にはブナやミズナラを中心とする冷温帯落葉広葉樹林が、下側にはアカガシ、ウラジロガシ、スダジイ等を中心とする暖温帯常緑広葉樹林が分布している。ところが、山頂直下 800m 地点のブナ林内でもアカガシが侵入して成長し、低木から亜高木に達している個体も見られる。標高 550m 付近ではブナは単木でしか生育せず、林冠の周囲を常緑広葉樹に囲まれている。今後の温暖化の進行とともに、林冠構成種には少しずつ変化が生じると考えられる。

【適応策】 2010年以降は温暖化の悪影響を減らす適応策の研究が一層求められるようになった。しかし、自然生態系の場合は即効性の高い適応策は難しい。現実的には地域の自然の実態を正しく評価した上での保全策が適応策になるだろう。例えば白神山地では国、地方自治体、地域住民、大学、世界遺産地域科学委員会などが協力し、多項目に及ぶ森林生態系のモニタリングが実施されている。また筑波山では、県、博物館、大学、NPO、ブナ林保護対策委員会などが協力し、ブナの全木調査が行われ、今後の保全対策について協議が続いている。このような科学的な生態系モニタリングの継続がますます重要となる。

Effects of weeding the shrub layer during thinning on surface soil erosion in a hinoki plantation (ヒノキ人工林における間伐時の低木層刈り払いが表土浸食に与える影響)

山岸極 (森林総研)

はじめに

土壌浸食は植物や土壌生物相の生育基盤である土壌の流出を引き起こすため、人工林管理において考慮すべき重要な要素である。通常、森林では下層植生やリターで構成される林床被覆が表土を保護するため、表土浸食が生じにくいとされている。しかし、既往研究では林床被覆が少ない森林において、雨滴による深刻な表土浸食の発生が報告されている。日本においても、管理が不十分な林床の暗いヒノキ人工林では林床被覆が低く、深刻な表土浸食が発生する傾向にある。このような林分では、間伐の実施に伴う林内光環境の改善が下層植生の発達を促し、表土浸食の軽減に寄与するとされている。ただし、間伐時には一般的に安全性と効率性の観点から低木層の刈り払いが実施される。低木層は雨滴衝撃の緩和効果が期待でき、表土保全上有用である可能性が高い。本研究では、ヒノキ人工林における間伐時の下層刈り払いが表土浸食に与える影響を明らかにすることを目的とした。

方法

本研究では、46年生ヒノキ人工林に設定した調査区に、間伐と下層刈り払いの有無を組み合わせた4種類の処理を行った(下層刈り払いを伴う間伐:TW、下層刈り払いを伴わない間伐:T、下層刈り払いのみ:W、無処理:C)。これらの処理区において、飛散土砂量と林床に形成された土柱の高さを、雨滴浸食の指標として調査した。また、雨滴浸食に対する影響要因として広葉樹リターフォール量、樹冠通過雨、林床被覆率、斜面傾斜をそれぞれ計測した。

結果・考察

本研究の結果、下層刈り払いを行った処理区(TWとW)は行っていない処理区(TとC)と比較して、飛散土砂量は高い傾向に、土柱高は低い傾向にあった。さらに、一般化線形混合モデル(GLMM)による多変量解析の結果では、飛散土砂量および土柱高に対して下層刈り払いが有意に影響を及ぼしていた。これらの結果は、下層刈り払いが雨滴浸食強度を増加させ、表土の浸食を促進していることを示唆している。この下層刈り払いによる雨滴浸食強度の増加は林内に成立していた低木層を取り除いたことにより雨滴の衝撃力が増加したためだと推察された。さらに本研究では、低木層の除去に伴う広葉樹リターフォール量の減少と、下層刈り払いを行った処理区での林床被覆率の低下も観測された。この結果は、下層刈り払いが林床へのリター供給を減少させ、林床被覆物の減少を引き起こすことを示唆している。これらの結果からヒノキ人工林内の下層刈り払いは雨滴衝撃の増加だけでなく、林床被覆物の低下を招き、表土浸食を促進すると考えられた。

キーワード

Chamaecyparis obtuse (ヒノキ), Soil splash detachment (飛散土砂), Soil conservation (土壌保全), Forest floor cover (林床被覆), Rain erosivity (降雨浸食強度) .

Conservation fundraising: Evidence from social media and traditional mail field experiments
(生物多様性保全のための資金調達: ソーシャルメディアと郵送 DM を用いたフィールド実験
によるエビデンス)

久保雄広 (国立環境研究所)

資金不足は生物多様性損失の主たる要因の1つである。しかし、これまで生物多様性保全の分野においては効果的に資金を調達するための知見が不足してきた。本研究では、呼びかけ方法や募金プラットフォームを変えることで、どのようにすれば効果的に寄付を獲得できるのか、アマミノクロウサギが生息する奄美大島の森を購入するための寄付キャンペーンを通じたフィールド実験を行った。

分析の結果、既に寄付された金額を強調するシードマネー・フレームは寄付者の数を増加させたのに対し、絶滅危惧種の保全に焦点を当てたエコロジカル・フレームは寄付者の数を相対的に減少させた。また、Facebook 広告 (オンライン) は費用が寄付額を上回ったのに対し、従来の郵送 DM (オフライン) を用いた実験では寄付額が費用を上回った。このことは、資金調達においては、キャンペーンを実施する前に、適切なドナー・プールを特定することが重要であることを示唆している。

本研究は昨今主流となるオンラインを介した資金調達の課題を示す一方、従来のアナログ的な方法の利点も改めて示したものである。今後も効果的な生物多様性の保全を促進するために、人々の行動に基づく科学的エビデンスを充実させていく必要があるだろう。

なお、本研究の詳細は以下の WEB サイト等を参照されたい。

- 本文 : Kubo, T., Yokoo, H. F., & Verissimo, D. (2023). Conservation fundraising: Evidence from social media and traditional mail field experiments. *Conservation Letters*, 16(1), e12931.
<https://conbio.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/conl.12931>
- 研究紹介ビデオ :
https://players.brightcove.net/3806881048001/default_default/index.html?videoId=6322283240112
- 日本語解説 (国立環境研究所プレスリリース) :
<https://www.nies.go.jp/whatsnew/2023/20230424/20230424.html>

A watershed-scale evapotranspiration model considering forest type, stand parameters, and climate factors

(森林タイプ・林分構造・気象条件を考慮した流域スケールの蒸発散モデルの構築)

猪越 翔大 (名大院生命農)

はじめに

森林の水源涵養機能評価では、針葉樹林や広葉樹林などといった森林タイプ、植栽や保育間伐などの森林の管理履歴の違いなどによる、多様な森林状態を考慮することが必要になる。特に森林水循環において年降水量の20~70%を占める蒸発散については、その構成要素である遮断量や蒸散量が、樹種や樹高・立木密度などの林分構造によって異なることが、多くの観測研究で明らかになってきた。一方で、これまでも多くの蒸発散量を評価するモデルが構築されてきたものの、流域内に存在する多様な森林状態は考慮されてこなかった。また、多くの既往研究事例が降雨を対象としており、山地上流域や日本海側などの積雪地域において重要となる降雪時の遮断も、これまでのモデルでは考慮されてこなかった。そこで本研究では、温帯林や冷温帯林を対象に、森林タイプ、林分構造(立木密度・樹高)、降雨・降雪を含む気象条件を考慮した、蒸発散モデルの構築を行った。

方法

本研究では遮断量、蒸散量それぞれについてモデルを構築した。国内外65報の遮断を観測した既往研究のデータを整理・収集し、各調査サイトの立木密度・樹高と降水量に対する遮断率の関係を調べ、遮断モデルを構築した。蒸散モデルについては、FLUXNETやAsiafluxから37サイトのデータを収集し、ペンマン・モンティース式で重要となる表面コンダクタンスの基準値(G_{sref})と、立木密度・樹高との関係を調べた。構築したモデルは、世界各地の3箇所における渦相関法による月別蒸発散量との比較検証を行った。

結果

遮断モデルは遮断率が針葉樹林では立木密度と、広葉樹林では樹高とともに増加していく関係式となり、降雨時・降雪時それぞれについて構築した。降雪時の針葉樹林における遮断については、スギなどの常緑針葉樹林と、落葉針葉樹であるカラマツ林では、異なる遮断率を推定できる式となった。蒸散モデルについては、 G_{sref} が樹高の増加に対応して減少する関係を利用し、常緑針葉樹林・落葉針葉樹林・広葉樹林のそれぞれで構築した。実測値との比較から、構築したモデルは特に蒸発散量の多い夏季において6~16%の誤差と、高い整合性が確認された。多様な森林状態を考慮できる本モデルは、森林の広域評価(森林簿や航空機LiDARの利用など)との組み合わせにより、降雨と降雪が混在し、森林状態が不均質な広域の蒸発散量評価を可能とし、流域や地域スケールでの森林水循環評価に活用可能である。

おわりに

本研究は主導者である筆者の他に、指導教員でありご推薦くださった五味高志氏、筑波大学放射線・アイソトープ地球システム研究センターの恩田裕一氏、邱滇璋氏、橋本朝陽氏、張宇攀氏、岐阜大学流域圏科学研究センターの斎藤琢氏との共著のもと遂行された。また、緻密なフラックス観測を長年にわたって行い、その貴重なデータをFLUXNETやAsiafluxに公開されてきた、多くの研究者の方々に深く感謝の意を申し上げる。

Differentiation and seasonality in suitable microsites of seed dispersal by an assemblage of omnivorous mammals

(果実を食べる哺乳類による種子散布場所の違いと季節変化)

栃木香帆子(東京農工大学)

はじめに

種子散布は、固着性の植物にとって数少ない移動の機会であり、植物の個体群動態や群集構造を決定づける重要なプロセスである。森林においても、樹木の配置を決定し、将来の森の姿に大きく影響することから、種子散布は森林の存続を考えるうえで重要な現象である。散布された種子が発芽し、実生が定着できるか否かは、散布される種子数などの量的要因と散布場所の環境条件などの質的要因によって決まる。

温帯林では、数多くの樹種が動物の果実の被食に伴う種子散布(被食散布)を行うことが知られており、主に果実を食べる動物種の生態の違いによって、各動物種が種子散布者として異なる役割を担っていると考えられている。しかし、これまでの研究では、種子散布者の種間の役割の違いは、散布する樹種数や種子量といった量的要因の比較がほとんどであり、各動物種がどのような環境に種子を散布しているのかといった質的要因については、検証例が少なかった。

そこで本研究では、日本の温帯林の哺乳類による被食種子散布に着目し、各哺乳類種の持つ役割を質と量の両方の視点から評価することを目的とした。

方法

2003年から2004年にかけて、夏(6~8月)と秋(9~11月)に東京都奥多摩地域に生息する哺乳類5種(ツキノワグマ、ニホンザル、テン、タヌキ、アナグマ)の糞を採取し、各哺乳類種によって種子を散布する確率や種子数、樹種数、散布する環境が異なるかを検証した。また、各種によって散布された環境の特徴をもとに、各種間の種子散布環境の類似度を算出し、各種の散布環境のばらつきや各種間における違いを評価した。さらに、哺乳類種—樹種と哺乳類種—種子散布環境のネットワーク構造を推定し、生態系における種子散布者全体としての機能を評価した。

結果・考察

種子が定着に最適な環境に散布される確率と種子数は、哺乳類種と季節によって異なっていた。例えば、夏はツキノワグマが、秋はニホンザルとテンが、最も高い確率で種子を最適な環境に散布していた。また、体の大きなツキノワグマは、一度に最も多くの種子を散布していた。さらに、種子が散布された環境も、種や季節によって異なっていた。ツキノワグマは夏には森林内に種子を多く散布したが、秋には森林内だけでなく、林縁部のような開空度の高い環境にも散布していた。また、ニホンザルとテンは季節に関係なく森林内からギャップ環境、林縁部まで多様な環境に散布していた。タヌキとアナグマは、地面が硬く、斜面が緩やかで下層植生が発達した環境に散布していた。これらの違いは各種の食性の変化やそれに伴う利用環境の変化を反映したものであった。

そして、ネットワーク構造解析では、各哺乳類種が、樹種や種子散布環境ごとに異なるグループを形成(モジュール構造)していることがわかった。このことから、哺乳類5種が種子を似たような環境にまんべんなく散布しているのではなく、それぞれが異なる環境に種子を散布することで、結果的にそれぞれの樹種の多様な環境への種子散布に貢献していることが示唆された。

Paired root-soil samples and metabarcoding revealed taxon-based colonization strategies in arbuscular mycorrhizal fungi communities in Japanese cedar and cypress stands
(スギ、ヒノキ林分における根と土壌のペア試料を用いたメタバーコーディングにより、分類群に基づくアーバスキュラー菌根菌群集の定着戦略が明らかにされた)

ジョタン・アコチフォール ケヴィン ジェオフロウ (東京大学大学院農学生命科学研究科)

はじめに

陸上植物の7割以上の種は、アーバスキュラー菌根（以下 AM）菌と総称される菌類が根に共生している。AM 菌は、宿主植物の養分吸収を高め、乾燥や病原菌に対する耐性を向上させる有用微生物である。日本の主要な造林樹種であるスギとヒノキは AM 菌と共生しており、両種の健全な生存・成長には AM 菌との共生が不可欠である。しかし、両種に共生する AM 菌に関しては既往研究が乏しく、種組成のようなくとも基礎的な情報さえ、スギについて3件の報告があるのみで、ヒノキについては皆無である。また、AM 菌は宿主植物の根内と周辺土壌（根外）の両方に生育しているが、根内と根外の AM 菌群集を同時に調べた研究は限られており、根に共生する AM 菌の群集形成メカニズムに関する知見はない。

材料と方法

本論文では、環境の異なる人工林（スギ・ヒノキ混交林2か所と、両種それぞれの人工林が隣接して存在する1ヶ所）に調査地を設定して根と周辺土壌をペアで採取し、次世代シーケンサーを用いたアンプリコンシーケンス解析により、根内と根外の AM 菌の種（OTU, 操作的分類単位）組成を調査した。

結果と考察

AM 菌は、3 調査地をあわせて、スギ・ヒノキの根内で 1067 OTU, 根外で 1170 OTU, 合計で 1443 OTU が検出された。いずれの調査地においても、スギ、ヒノキともに根内よりも根外の方が OTU 数が有意に多く、根内と根外の AM 菌の群集構造は有意に異なっていた。検出頻度が高かった OTU について CLAM による解析を行った結果、有意に根内に多く存在する OTU が 90, 根外に多く存在する OTU が 177 であった。また、本研究で検出された 15 属の AM 菌のうち、*Glomus* 属と *Acaulospora* 属は有意に根内に多く、*Paraglomus* 属と *Redeckera* 属は有意に根外に多かった。以上の結果から、スギ・ヒノキに共生する AM 菌は分類群により定着戦略が異なり、根内に多くの菌糸を定着させて根外には菌糸をあまり伸ばさない分類群と、根内にはあまり定着せずに根外に多くの菌糸を伸ばす分類群が存在することにより、根内と根外の AM 菌群集構造が異なることが示唆された。一方、宿主植物に着目すると、スギとヒノキが混植された調査地では AM 菌の群集構造に宿主間で有意な違いはなく、スギのみ、ヒノキのみが単植された調査地では群集構造に宿主間で有意な違いがみられた。また、CLAM による解析の結果、スギと有意に関連する OTU が 4, ヒノキと有意に関連する OTU が 4, 両種のどちらにも関連する OTU が 13 みられた。これらの結果から、スギとヒノキに特異的な OTU は少なく、両者が共存する場所では AM 菌群集を共有していると推測された。

以上のように、本研究は、ヒノキと共生する AM 菌の種多様性を初めて明らかにするとともに、スギ・ヒノキに共生する AM 菌の定着戦略が分類群により異なる可能性を初めて示した。

Are seeds of trees with higher fruit production dispersed farther by frugivorous mammals?

(実りの豊かな木ほど遠くまでタネを散布するのか?)

Shinsuke Koike; Kahoko Tochigi and Koji Yamazaki

Journal of Forest Research 28 (1): 64–72, 2023

授賞理由

本論文は日本の哺乳類の中で代表的な種子散布者である5種(ツキノワグマ、サル、テン、タヌキ、アナグマ)についてカスミザクラの果実持ち去り率や種子散布距離を推定している。直接観察が難しく個体数も少ない哺乳類では種子散布の評価は容易ではなく、哺乳類で果実持ち去り率を定量評価した研究はこれまでにほとんどない。本論文はこの課題を独自のアイデアで採餌実験、カメラトラップ、GPS、糞分析、先端的な統計手法を組み合わせることで解決している点に高い独創性・飛躍的進歩性がある。5種もの哺乳類で種子散布を統一的な手法で定量評価したことにより、種子散布に関する新たな知見と仮説が提示されており、この研究分野における発展性や国際性の観点からも高く評価できる。

要旨

動けない植物にとって種子散布は、子孫を残すとともに、移動することが出来る唯一の機会である。種子散布の中でも動物の採食活動によって種子が散布される被食散布では、種子散布を担う動物種によって、種子の散布距離や種子の散布量が異なることから、種子散布者としての役割が動物種間で異なることが知られる。しかし、各動物種の種子の散布距離と種子の散布量を同時に、定量的に評価されたことはなかった。この課題を解決するために、本研究は種子散布を担う哺乳類5種(ツキノワグマ、ニホンザル、ホンドテン、タヌキ、ニホンアナグマ)を対象に、種子散布距離と散布種子量の両方を、野外調査と室内実験を組み合わせることで同時に推定し、動物種間で比較するとともに、樹木の個体ごとにおける結実量と長距離に散布される種子の量との関係を検証した。まず、種子の散布距離は各動物種の野生個体の行動追跡調査と飼育個体を用いた種子の腸内滞留時間の測定調査の両結果から推定した。また、種子の散布量は野外のカスミザクラ9本を対象に、複数年にわたり樹木ごとの結実量、各動物種が果実を食べに木に訪問する回数を自動撮影カメラで記録するとともに、野外で採取した各動物種の糞に含まれる種子の量と飼育個体を用いた採食実験から、動物が果実を食らせた木を訪問した際に、訪問1回当たりに採食する果実の量を推定した。その結果、各動物種によって種子の散布距離の分布は異なり、主に長距離の種子散布を担うのはツキノワグマとホンドテンであった。また、各動物種の木への訪問1回当たりに採食する果実数も種間で大きく異なり、ツキノワグマが極めて大きいことが判明した。さらに、観察を行った木ごとにみると、結実量が多い木ほどこれらの哺乳類によって散布されると推定される種子の量は多いだけでなく、長距離に散布される種子の量も多くなる傾向があり、ツキノワグマの結実木への訪問の有無が強く影響した。本結果より、生態系における各動物種の種子散布者としての役割を正しく理解するには、植物の種子散布における複数の視点(今回は種子の散布量と散布距離)を同時に評価する必要性が示唆された。さらに、木ごとの結実量の違いにより、果実を食べに訪れる動物相や個体数は異なったことから、果実と種子散布者の相互の関係を明らかにするためには、結実量の異なる多くの木を、複数年にわたって観察することの必要性も示唆された。

衛星データを用いた森林変化マップにおける面積推定と精度評価の手法

志水克人

日本森林学会誌 105 巻 5 号, 166-182, 2023

授賞理由

リモートセンシングにおける解析精度の判定方法の適否は重要な問題であり古くから議論が重ねられてきたものの、日本では精度の評価方法についての学術的な論文・総説がこれまでなかった。志水会員の論文は、精度評価に関する数多くの国際誌を参照して、その問題点と国際的に標準とされる精度評価方法について体系的にまとめ、森林リモートセンシング分野における学術的発展性への貢献が非常に大きい、完成度の高い総説である。

海外では違法伐採の監視、国内では伐採届等との突合といった目的でその技術の需要が高まりつつあることを踏まえ、評価に利用した R のモデルを公開することでリモートセンシングの解析において適切な精度評価方法の普及に貢献しう。また、森林変化マップを作成する場面で本論を参考に適切な精度評価が実施されることが期待されることなどの波及性が期待される。さらには、和文誌での発表により国内における技術水準の向上に寄与した点はおおいに評価される。

要旨

森林変化や土地被覆変化マップなどの主題図には現実との相違がある程度含まれる。主題図を効果的に利用するためには、マップ分類がどの程度正しいかを表す精度を評価することが重要になる。本総説では、衛星データを用いて作成した森林変化マップの面積推定と精度評価における基本的な原則を整理し、精度評価の構成要素を Sampling design、Response design、Analysis にわけ、それぞれで基準と推奨される手法を示した。また、精度評価を実施する上での留意点についても記述した。統計的に厳密な精度評価では、無作為抽出を基本とした確率抽出によりサンプルを抽出し、リファレンスデータとの相違を解析して、マップ分類の精度を推定する。精度評価と面積推定では、母集団誤差行列が中心的な役割を担う。サンプル抽出に対応した不偏推定量もしくは一致推定量を利用することで、精度と面積の推定値と信頼区間を算出し不確実性を示すことができる。精度評価の基本的な手法は確立されているが、より新しい手法も提案されている。精度評価では全てに対応する単一の手法はなく、目的に応じて適切かつ基準を満たす手法を選択する必要がある。

JFS Event 4 Poster Presentations from Overseas

GP-01 Various activities of the Korean Society of Forest Science in 2023

Soo Hyung EO^{1,2}, Ho Sang KANG^{1,3}, Sang-Hyun LEE^{1,4}, Su Young WOO^{1,5}

¹*Korean Society of Forest Science*

²*Department of Forest Science, Kongju National University*

³*Institutes of Green Bio Science and Technology, Seoul National University*

⁴*Department of Forest Environment Science, Jeonbuk National University*

⁵*Department of Environmental Horticulture, University of Seoul*

GP-02 Development of on-site quick diagnosis system for detecting Phytoplasma related diseases in South Korea

Sun Keun Lee¹, Yoon Hee Bae², Geon Woo Lee³, Sang Sub Han³, Hyeong Woo Lee^{4*}

¹*Warm Temperature and Subtropical Forest Research Center, National Institute of Forest Science, Republic of Korea,*

²*BD Ferm Biotech Co., Ltd, Republic of Korea,*

³*Department of Forest Environment Science, College of Agriculture and Life Sciences, Jeonbuk National University, Republic of Korea,*

⁴*SpeegeneBio Co., Ltd, Republic of Korea*

GP-03 A Comparative Analysis of Forest Carbon Offset Projects under the Korea Forest Carbon Offset Scheme and Verified Carbon Standard

Youjin Jung¹, Yujeong Lee¹, Joonsoo Kim¹

¹*Department of Forest Management, Kangwon National University*

GP-04 Assessment of genetic diversity for restoration materials selection of *Picea jezoensis* populations in South Korea

Hyo-In Lim, Han-Na Seo

Forest Bioinformation Division, National Institute of Forest Science, Republic of Korea

GP-05 Advancing *Tilia amurensis* Improvement: A Comprehensive Approach to Plus-Tree Selection

Kyungmi Lee^{1*}, In-Sik Kim¹, Wan-Yong Choi²

¹*Division of Tree improvement and Biotechnology, Department of Forest Bio-Resources, National Institute of Forest Science*

²*Better Trees for Tomorrow*

GP-06 Wood species identification of Rubber and Acacia tree based on wood anatomy and DNA analysis

Ji-Young Ahn ^{1*}, Hyun-Mi Lee ²

¹*Forest Bioinformation Division, National Institute of Forest Science, Republic of Korea*

²*Wood Engineering Division, National Institute of Forest Science, Republic of Korea*

GP-07 Short-term Effects of Earthworms (*Eisenia andrei*) on Soil CO₂ Emission during Autumn Season in a Temperate Deciduous Forest

Gaeun Kim¹, Heejae Jo¹, Minyoung Kwon¹, Yowhan Son^{1*}

¹Department of Environmental Science and Ecological Engineering, Korea University

GP-08 Seawater crystal deposition in the stomata of *Pinus thunbergii* needles

Junhyung Park¹, Dahye Seo¹, Ki Woo Kim^{1,2}

¹Department of Ecology and Environmental System, Kyungpook National University, Korea

²Tree Diagnostic Center, Kyungpook National University, Republic of Korea

GP-09 Nighttime water use between two woody species in Korea

Kiwoong Lee^{1*}, A reum Kim¹, Eun-sook Kim¹

¹Division of Forest Ecology, National Institute of Forest Science, Republic of Korea,

GP-10 Restoring Soil Fertility, Productivity and Biodiversity through Participatory Agroforestry: Evidence from Madhupur Sal Forest, Bangladesh

Kazi Kamrul Islam^{1,*}, Kimihiko Hyakumura²

¹Department of Agroforestry, Bangladesh Agricultural University

²Institute of Tropical Agriculture, Kyushu University